



競争力を有し経営の基本精神に基づいた、 グローバルな研究開発型のバイオ医薬品のリーディングカンパニー

2019年度第2四半期決算発表



2019年10月31日

Better Health, Brighter Future

重要な注意事項

本注意事項において、「プレゼンテーション（presentation）」とは、本プレゼンテーションにおいて武田薬品工業株式会社（以下、「**武田薬品**」）によって説明又は配布された本書類、口頭のプレゼンテーション、質疑応答及び書面又は口頭の資料を意味します。本プレゼンテーション（それに関する口頭の説明及び質疑応答を含みます。）は、いかなる法域においても、いかなる有価証券の購入、取得、申込み、交換、売却その他の処分の提案、案内若しくは勧誘又はいかなる投票若しくは承認の勧誘のいずれの一部を構成、表明又は形成するものではなく、またこれを行うことを意図していません。本プレゼンテーションにより株式又は有価証券の募集を公に行うものではありません。米国 1933 年証券法に基づく登録又は登録免除の要件に従い行うものを除き、米国において有価証券の募集は行われません。本プレゼンテーションは、（投資、取得、処分その他の取引の検討のためではなく）情報提供のみを目的として受領者により使用されるという条件の下で（受領者に対して提供される追加情報と共に）提供されております。当該制限を遵守しなかった場合には、適用のある証券法違反となる可能性があります。

武田薬品が直接的に、又は間接的に投資している会社は別々の会社になります。本プレゼンテーションにおいて、「武田薬品」という用語は、武田薬品及びその子会社全般を参照するものとして便宜上使用されていることがあります。同様に、「当社（we, us及びour）」という用語は、子会社全般又はそこで勤務する者を参照していることもあります。これらの用語は、特定の会社を明らかにすることが有益な目的を与えない場合に用いられることもあります。

将来に関する見通し情報

本プレゼンテーション及び本プレゼンテーションに関して配布された資料には、武田薬品の見通し、予測、目標及び計画を含む当社の将来の事業、将来のポジション及び業績に関する将来見通し情報、理念又は見解が含まれています。将来見通し情報は、「目標にする（targets）」、「計画する（plans）」、「信じる（believes）」、「望む（hopes）」、「継続する（continues）」、「期待する（expects）」、「めざす（aims）」、「意図する（intends）」、「確実にする（ensures）」、「[だるう（will）」、「[かもしれない（may）」、「[すべきであろう（should）」、「[であろう（would）」、「[することができた（could）」、「[予想される（anticipates）」、「[見込む（estimates）」、「[予想する（projects）」などの用語若しくは同様の表現又はそれらの否定表現を含むことが多いですが、それに限られるものではありません。この書類における将来見通し情報は、この書類の作成日時時点のみにおける、当社の見通し及び前提に基づくものです。かかる将来見通し情報は、当社又は当社の役員による、将来の業績に関する保証を伴うものではなく、既知及び未知のリスクと不確実性その他の要素を伴います。リスクと不確実性には、日本及び米国の一般的な経済条件を含む当社のグローバルな事業を取り巻く経済状況、競合製品の出現と開発、関連法規の変更、製品開発計画の成功又は失敗、規制当局による判断とその時期、金利及び為替の変動、市場で販売された製品又は候補製品の安全性又は有効性に関するクレーム又は懸念等、買収対象企業とのPMI（買収後の統合活動）の時期及び影響、武田薬品の事業にとってのノン・コア資産を売却する能力及びかかる資産売却のタイミングが含まれますが、これらに限られません。これらにより、当社の実際の業績、経営結果、財務内容は、将来見通し情報において明示又は暗示された将来の業績、経営結果、財務内容とは、大きく異なる可能性があります。当社の業績、経営結果又は財務状況に影響を与え得る事項の詳細に関しては、米国証券取引委員会に提出したForm 20-Fによる最新の年次報告書の第3項重要事項 - D. リスクファクター及び他の報告書をご参照ください（<https://www.takeda.com/investors/reports/sec-filings/>）又は www.sec.gov において閲覧可能です。）。武田薬品の将来の業績、経営結果又は財務状況は、将来見通し情報において明示又は暗示されたものと大きく異なることがあります。本プレゼンテーションの受領者は、将来見通し情報に過度に依存するべきではありません。武田薬品は、法律や証券取引所の規則により要請される場合を除き、本プレゼンテーションに含まれる、又は当社が提示するいかなる将来見通し情報を更新する義務を負うものではありません。過去の実績は将来の経営結果の指針とはならず、また、本プレゼンテーションにおける武田薬品の経営結果は武田薬品の将来の経営結果を示すものではなく、また、その予測、予想又は見通しではありません。

国際会計基準に準拠しない財務指標

本プレゼンテーションには、実質的な売上収益、Core営業利益、実質的なCore営業利益、Core純利益、実質的なCore EPS、有利子純負債、EBITDA、調整後EBITDA、フリーキャッシュフローのように、IFRSに準拠しないIFRS財務指標が含まれています。当社役員は業績評価並びに経営及び投資判断を、IFRS及び本ニュースリリースに含まれるIFRS以外の指標に基づき行っています。IFRSに準拠しない財務指標においては、に最も近いIFRS財務指標では含まれることとなる、又は異なる数値となる一定の利益、コスト及びキャッシュフロー項目を除外しております。IFRSに準拠しない財務指標を提供することで、当社役員は、投資家の皆様に対し、当社の経営状況、主要な業績及び動向の更なる分析のための付加的な情報を提供したいと考えております。IFRSに準拠しない財務指標は、IFRSに準拠するものではありません、付加的なものであり、また、IFRSに準拠する財務指標に代替するものではありません。投資家の皆様におかれましては、IFRSに準拠しない財務指標につき、本プレゼンテーションのスライド49-58、60に記載した、これらに最も良く対応するIFRS準拠財務指標との照合を行っていただけますようお願い申し上げます。

医療情報

本プレゼンテーションには、製品についての情報が含まれておりますが、それらの製品は、すべての国で発売されているものではありませんし、また国によって異なる商標、効能、用量等で販売されている場合もあります。ここに記載されている情報は、開発品を含むいかなる医療用医薬品の効能勧誘、宣伝又は広告するものではありません。

財務情報

当社の財務諸表は、IFRSに基づき作成しております。シャイアー社の財務諸表は米国会計基準に基づき作成されております。従いまして、両社の財務情報は直接的に比較検討可能なものではありません。

シャイアー社の買収は2019年1月8日に完了しており、当社の2019年3月31日までの事業年度における連結業績には、2019年1月8日から2019年3月31日までのシャイアー社の業績が含まれています。なお、「旧武田薬品」ビジネスとの記載は、シャイアー社の買収前の当社のビジネスを意味し、「旧Shire社」ビジネスとの記載は、シャイアー社の買収により当社が取得したビジネスを意味しています。

本プレゼンテーションには、シャイアー社の買収が2018年4月1日に完了したとの前提に基づく試算が含まれています。当該試算は、米国証券取引委員会定めるRegulation S-Xの第11条に基づき算出されたものではないことにご留意ください。当該試算は、説明の便宜のため提示するものであり、また、本プレゼンテーションの作成日までに当社が入手した情報に基づく一定の前提及び判断に基づくものであって、これらの前提及び判断は、シャイアー社の買収が実際に2018年4月1日に完了していたとしてもすべて当てはまるものではありません。さらに、当該試算は、シャイアー社の取得に直接には起因しない、又はシャイアー社の取得後に生じた、事業売却や取得対価配分（PPA）等の一定の取引及び事象も対象としています。従って、これらは、シャイアー社の買収が実際に2018年4月1日に完了していたとしても、当社の財務状況及び業績を正確に反映するものではありません。そのため、本プレゼンテーションに含まれる試算は、必要以上に依拠すべきものではありません。

AGENDA

- 01. Introduction** _____ クリストフ・ウェバー
代表取締役社長 CEO 
- 02. ビジネスエリアのフォーカス**
- 03. R & Dエンジン** _____ アンドリュー・ブランブ
リサーチ&開発
プレジデント 
- 04. 強固な財務プロフィール** _____ コスタ・サルウコス
チーフ フィナンシャル オフィサー 
- 05. Closing Remarks** _____ クリストフ・ウェバー
代表取締役社長 CEO 
- 06. 質疑応答**



INTRODUCTION



クリストフ・ウェバー
代表取締役社長 CEO

01.
Introduction

02.
ビジネスエリアの
フォーカス

03.
R & Dエンジン

04.
強固な財務
プロフィール

05.
Closing
Remarks

06.
質疑応答

戦略的優先事項を達成

- ☑ 力強いビジネスモメンタムを維持しつつ統合が順調に進捗
- ☑ 14のグローバルブランド、コスト・シナジー、営業経費効率化により、2019年度上期は良好な業績で着地
- ☑ 2019年度通期の利益および利益率予想を上方修正
- ☑ R&Dエンジンにより、売上収益の長期的な成長を支えるパイプラインが進展

4



2019年度上期の決算ハイライト

ビジネスエリアの フォーカス



- 主力製品である14のグローバルブランドの実質的な成長は力強い+21%
- ポートフォリオ適正化・レバレッジ低下を加速するための事業売却計画を着実に実行（中近東・アフリカにおける一部の一般用医薬品・ノンコア資産売却合意公表）
- NATPARAの早期供給再開に向けて米国食品医薬品局と綿密に連携

R&D エンジン



- ベストインクラス、ファーストインクラスの可能性がある8つの新規候補物質のピボタル試験が進行中
- オレキシン2RアゴニストTAK-925の1型ナルコレプシーに対する初期の有効性データを世界睡眠学会で公表
- ENTYVIOの直接比較試験およびTAK-620の臨床第2相データがNew England Journal of Medicineで公表
- うつ病・うつ状態の治療剤としてTRINTELLIXが日本で承認取得

強固な財務 プロファイル



- 2019年度上期売上収益は、財務ベース前年比+88.5%、実質ベース（Pro-forma^{*1}比較）同△0.2%
- 2019年度上期において、Core営業利益^{*2}は5,416億円、実質ベースのCore営業利益率は32.2%
- 2019年度第2四半期に5,845億円を返済、純有利子負債/調整後EBITDAは3.9倍^{*3}へ低下
- 良好なビジネスモメンタムが、NATPARA回収の影響および為替による大きなマイナス影響を吸収し、年間利益およびマージンのガイダンスを上方修正

*1. 2018年4-9月（Pro-formaベース）および2019年4-9月の実質的売上収益の変化率。2018年度上期（4-9月）pro-formaは、2018年度上期の武田薬品売上収益（売却事業等を調整）と、期中（2018年4月～2019年3月）平均レート111円/ドルで円貨換算しUS GAAPからIFRSへ組み替えた同期間の旧Shire社売上収益（売却事業等を調整）の合計（なお、重大な差異は認められなかった）。調整表は49ページをご参照下さい。

*2. 前年度までCore Earningsとして呼称（定義変更なし）。定義は42ページをご参照下さい。

*3. 調整表は56-57ページをご参照下さい。

5





ビジネスエリアの フォーカス



クリストフ・ウェバー
代表取締役社長 CEO

01.

Introduction

02.

ビジネスエリアの
フォーカス

03.

R & Dエンジン

04.

強固な財務
プロフィール

05.

Closing
Remarks

06.

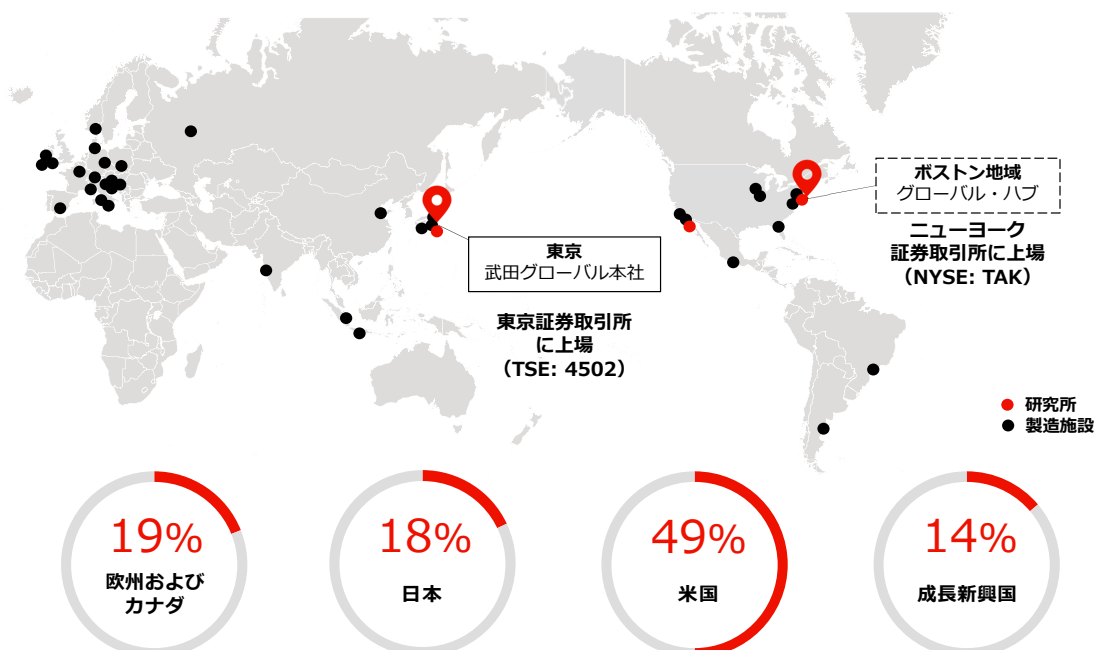
質疑応答

競争力を有し経営の基本精神に基づいた
グローバルな研究開発型のバイオ医薬品のリーディングカンパニー

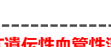
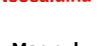
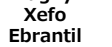
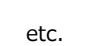
約1兆6,600億円
約152億米ドル^{*1}

2019年度上期
財務ベース
売上収益

2019年度上期
財務ベース売上収益
地域別内訳



主要な5つのビジネスエリアにおけるポートフォリオが売上収益の約79%を占める

 消化器系疾患 対売上収益比約21% 対前年比+9%	 希少疾患 対売上収益比約20% 対前年比△11%	 血漿分画製剤 (PDT) PDT免疫疾患 対売上収益比約12% 対前年比+4%	 オンコロジー 対売上収益比約13% 対前年比+11%	 ニューロサイエンス 対売上収益比約13% 対前年比+6%	その他 対売上収益比約21% 対前年比△8%	
       	   	     	      	        	          	       etc.

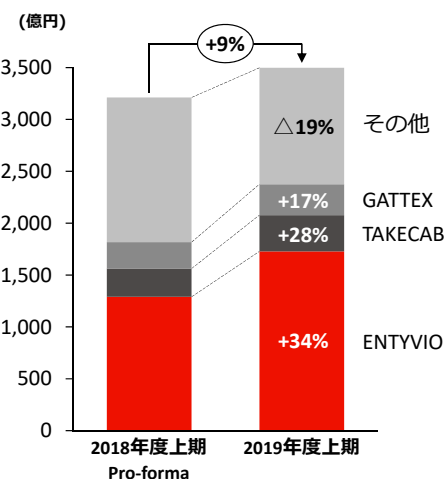
注：対前年比は実質ベースのpro-forma成長率。2018年度上期売上収益 Pro-formaは、2018年4月～2018年9月の旧武田薬品と旧Shire社製品を合計売上高から売却資産による売上を除き、期中（2018年4月～2019年3月）平均レート、1ドル＝111円で換算したもの

消化器系疾患

消化器系疾患フランチイズの堅調な成長は消化管選択的なENTYVIO®が牽引

消化器系疾患

上期実質的な売上収益成長



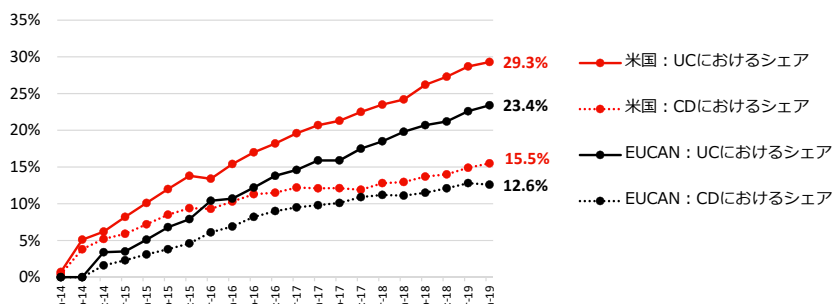
消化器領域におけるリーダーシップのさらなる強化

- ・ 米国にて、2019年5月に小児の短腸症候群の適応承認取得



米国および欧州において患者シェアの拡大

- ・ 潰瘍性大腸炎におけるアダリムマブとの初めての直接比較データがNEJMに掲載
- ・ 皮下投与製剤が、米国・欧州・日本において審査中*1
- ・ 米国・欧州およびカナダ・新興国市場において二桁台の実質的な売上収益成長



出所：SHA Medical and Pharmacy Claims data、2019年7月、2019年度第1四半期までのデータ；欧州およびカナダ：社内推定

注：売上収益の絶対値は実績為替レート、前年比変化は実質的なPro-forma成長を示す。2018年度上期（4-9月）pro-formaは、2018年度上期の武田薬品売上収益と、期中（2018年4月～2019年3月）平均レート111円/ドルで円貨換算US GAAPからIFRSへ組み替えた同期間の旧Shire社売上収益（売却事業等を調整）の合計（なお、重大な差異は認められなかった）。UC：潰瘍性大腸炎、CD：クローン病、NEJM：New England Journal of Medicine、EUCAN：欧州およびカナダ

*1. 欧州においてUC及びCDの両方の適応を申請、米国及び日本はUCのみを申請（CD申請計画中）



希少疾患

TAKHZYRO®の遺伝性血管性浮腫における予防市場での拡大

グローバルで1,700名以上の患者さんがTAKHZYROの投与を受け、
強い立ち上がりが継続

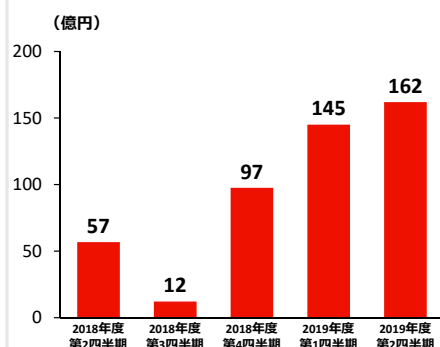
米国:

- TAKHZYROは遺伝性血管浮腫予防投与市場の成長に寄与
- すべての処方医、とりわけ専門医の元で強い立ち上がり
- 幅広い浸透:
 - 患者の約3分の1は新規に予防投与を開始
 - 約3分の1は（急性期治療から）予防投与へ変更
 - 約3分の1は（他剤から）タケダ製品への切り替え

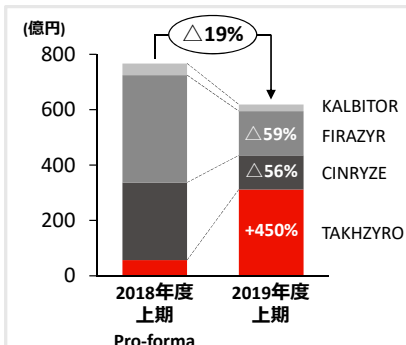
その他の地域:

- ドイツ・オーストリア・ギリシャでの強い立ち上がり、フィンランド・ノルウェー・スウェーデン・スイス・英国での発売準備
- 保険償還の交渉が進捗: イングランドにおいてNICEの肯定的見解を獲得
- フランスにおいて100名以上の患者がATU*1を活用

TAKHZYRO上市以降のグローバル売上収益*2



遺伝性血管性浮腫
上期実質的な売上収益成長



- 2018年度第1四半期の在庫積み増し、CINRYZE投与対象患者の減少およびFIRAZYRの独占販売期間終了の影響により、FIRAZYRおよびCINRYZEが減少

*1. Temporary Authorisation for Use (ATU) は、フランスにおいてアンメット・メディカル・ニーズが高い場合に、発売前の医薬品へ早期にアクセスすることを可能にした制度
 *2. 旧Shire社の売上収益を含む。2018年度第2および第3四半期の売上収益を期中（2018年4月～2019年3月）平均レート111円/ドルで円貨換算（なお、重大な差異は認められなかった）
 注: 売上収益の絶対値は実績為替レート（財務ベース）、前年比変化は実質的なPro-forma成長を示す。2018年度上期（4-9月）pro-formaは、2018年度上期の武田薬品売上収益（売却事業等を調整）と、期中（2018年4月～2019年3月）平均レート111円/ドルで円貨換算しUS GAAPからIFRSへ組み替えた同期間の旧Shire社売上収益（売却事業等を調整）の合計（なお、重大な差異は認められなかった）

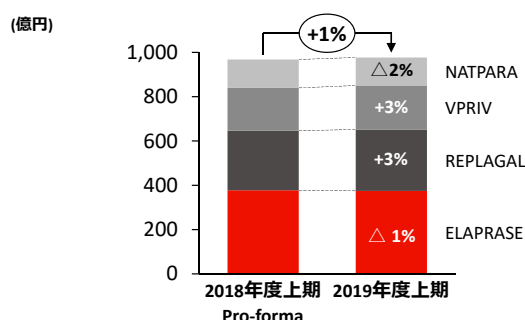


希少疾患

希少代謝性疾患では米国でのNATPARA®回収影響を除き安定した成長 希少血液疾患における競合の影響は想定通り

希少代謝性疾患

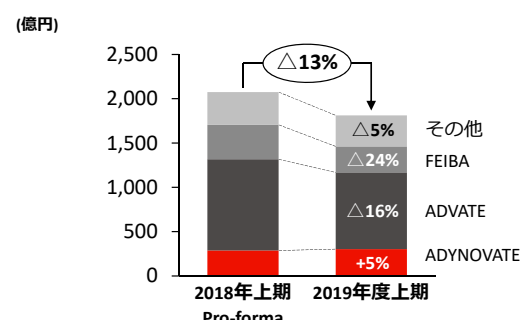
上期実質的な売上収益成長



- ライソゾーム病ポートフォリオにおける安定した成長が継続
- NATPARAの減少は、米国における回収影響に起因。タケダはこの問題を解決するため、およびNATPARAのできるだけ早期の供給再開に向けて米国FDAと綿密に連携

希少血液疾患

上期実質的な売上収益成長



- 発売国数増加でADYNOVATEは成長（米国外では現在25カ国で発売可能）；PROPEL試験データは個別化出血予防の重要性を裏付ける
- ADVATEの減少は、ADYNOVATE拡大と従来型の標準的な半減期セグメントでの価格圧力増加に部分的に起因
- ADVATEおよびADYNOVATEの競合の影響は国ごとに異なる
- FEIBAの減少は、出血予防セグメントでの競合浸食による

注: 売上収益の絶対値は実績為替レート（財務ベース）、前年比変化は実質的なPro-forma成長を示す。2018年度上期（4-9月）pro-formaは、2018年度上期の武田薬品売上収益（売却事業等を調整）と、期中（2018年4月～2019年3月）平均レート111円/ドルで円貨換算しUS GAAPからIFRSへ組み替えた同期間の旧Shire社売上収益（売却事業等を調整）の合計（なお、重大な差異は認められなかった）



血漿由来の免疫疾患治療

血漿分画製剤の免疫疾患治療領域の成長は免疫グロブリン皮下注射製剤とアルブミンが牽引

血漿由来の免疫疾患治療ポートフォリオ

上期実質的な売上収益成長

GAMMAGARD LIQUID
[Immune Globulin Intravenous (Human)] 10%

Kiovig
Human Normal Immunoglobulin (HNg) 10% Solution

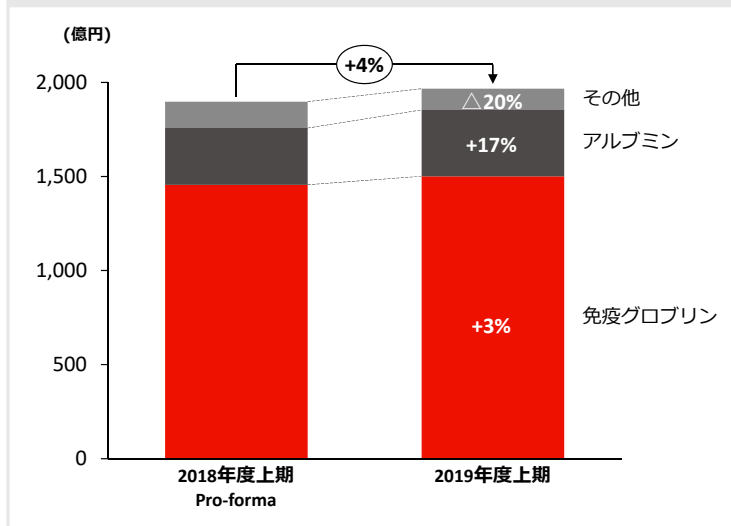
HyQvia
Human Normal Immunoglobulin (HNg) Recombinant Human Hyaluronidase

Cuvitru
[Immune Globulin Subcutaneous (Human)] 20%

- 免疫グロブリン製剤は、静脈注射製剤（IVIG）出荷期ずれの影響があったものの、皮下注射製剤（SCIG）の継続的な成長により3%の成長
- 第2四半期に免疫グロブリン製剤売上収益は前年比+8%に成長回復
- 当年度残りの期間で、1ヶ台後半の実質ベースの売上収益成長を見込む

血漿収集センターへの投資継続

- 現在、米国で115のセンター、米国外で30のセンターを保有。旧Shire社買収完了後、23施設を増加
- 今後も投資を継続し、毎年2桁のセンター数の増加を目指しながら拠点を広げる予定



注: 売上収益の絶対値は実績為替レート（財務ベース）、前年比変化は実質的なPro-forma成長を示す。2018年度上期（4-9月）pro-formaは、2018年度上期の武田薬品売上収益（売却事業等を調整）と、期中（2018年4月～2019年3月）平均レート111円/ドルで円貨換算しUS GAAPからIFRSへ組み替えた同期間の旧Shire社売上収益（売却事業等を調整）の合計（なお、重大な差異は認められなかった）



オンコロジー

オンコロジー ポートフォリオの強固な成長はニンラーロ®が牽引

オンコロジー ポートフォリオ

上期実質的な売上収益成長^{*1}

NINLARO
(ixazomib) capsules

グローバルにおける成長継続&データの読み出しを予定

- 自家造血幹細胞移植未実施の多発性骨髄腫の維持療法（TOURMALINE-MM4）のデータ読み出しを2019年度第3四半期に予定、初発の多発性骨髄腫（TOURMALINE-MM2）は2020年度を予定
- 自家造血幹細胞移植後の多発性骨髄腫維持療法で日本承認申請（TOURMALINE-MM3）
- 医療現場の再発難治性適応でNRd療法のリスク/ベネフィットを確認するリアルワールドデータの創出（INSIGHT MM）

ADCETRIS
brentuximab vedotin

新規適応症への拡大

- 未治療のCD30陽性末梢性T細胞リンパ腫（PTCL）を対象として、欧州・日本・その他の市場で審査中
- 未治療のホジキンリンパ腫を対象として、現在40か国以上で承認

ALUNBRIG
BICICATINIB

ALTA-1試験2度目の中間解析データを見据えて

- 現在、欧州11か国で商業発売
- ALK陽性非小細胞肺がん一次治療（ALTA-1L試験）の2度目の中間解析を実施し、現在解析中、データ公表は2019年度下期の学会で公表予定

NRd: ニンラーロ、レナリドミド、デキサメタゾン併用



注: 売上収益の絶対値は実績為替レート（財務ベース）、前年比変化は実質的なPro-forma成長を示す。

*1. 旧Shire社のオンコロジー事業売上収益を含まない。

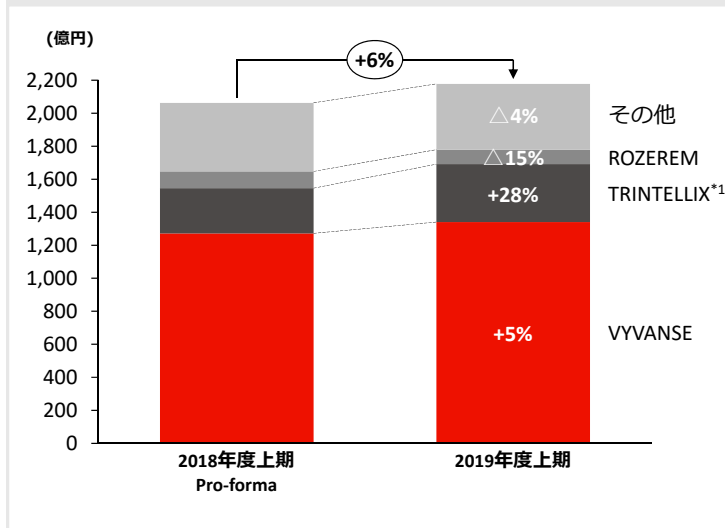
*2. ADCETRISはSeattle Geneticsより導入；北米外での販売権を保有



ニューロサイエンス

ニューロサイエンスは新たな販売体制となった米国事業が牽引

ニューロサイエンス ポートフォリオ 上期実質的な売上収益成長



*1. TRINTELLIXはLundbeck社より導入；米国と日本で共同販売権を保有

注：売上収益の絶対値は実績が替レート（財務ベース）、前年比変化は実質的なPro-forma成長を示す。2018年度上期（4-9月）pro-formaは、2018年度上期の武田薬品売上収益（売却事業等を調整）と、期中（2018年4月～2019年3月）平均レート111円/ドルで円貨換算しUS GAAPからIFRSへ組み替えた同期間の旧Shire社売上収益（売却事業等を調整）の合計（なお、重大な差異は認められなかった）



販促活動の最適化が成長する 成人適応での市場における需要喚起

- ・ 米国で新販売体制のもと、顧客カバレッジを改善、成人セグメントに焦点を当てた最適なメディア投資
- ・ カナダでの成長やドイツでのElvanse Adult発売によるさらなる成長



市場シェアの増加により 20%を超える成長

- ・ 米国広告キャンペーンの最適化の継続により新規患者が増加
- ・ 米国において、患者サポートプログラムへの登録数が増加し、TRINTELLIXによる平均治療期間が伸びる
- ・ 日本において、2019年9月にうつ病・うつ状態の治療薬として承認取得

グローバルブランド14製品の力強い成長

2019年度上期売上収益						2019年度上期売上収益					
		(億円)	(百万米ドル)	対前年	グローバルブランド			(億円)	(百万米ドル)	対前年	グローバルブランド
消化器疾患	Entyvio [®] vedolizumab	1,684	1,544	+33.9%	🌐	血液分画製剤	IMMUNOGLOBULIN	1,465	1,343	+3.0%	🌐
	Takecab [®]	350	321	+28.3%	🌐		GAMMAGARD [®] LIQUID [Human Immune Globulin Intravenous (Human)] 100%			-2.2%	🌐
	Gattex [®] (Fentanyl citrate) for injection	293	268	+17.0%	🌐		Kiovig [®] Human Normal Immune Globulin (HPL)			+23.9%	🌐
	ALOFISEL	1	1	N/A (2018年8月上市)	🌐		HyQvia [®] Human Normal Immune Globulin (HPL) Recombinant Human Hyaluronidase			+4.9%	🌐
希少疾患	TAKHZYRO [®] Tirapizumab-lyso injection	307	281	+450%	🌐	オンコロジー	ALBUMIN/FLEXBUMIN ^{*1}	341	312	+16.9%	🌐
	ADYNOVATE [®] Adenovirus type 5 vector Recombinant Coxsackie B virus (rCBV)	298	273	+5.4%	🌐		NINLARO [®] [ixazomib] capsules	383	351	+32.7%	🌐
	Natpara [®] (icarusulfase)	124	114	-2.2%	🌐		ADCETRIS [®] brentuximab vedotin	258	236	+32.7%	🌐
	elaprase [®] (icarusulfase)	355	326	-0.6%	🌐	ニューロサイエンス	ALUNBRIG [®] [brigatinib] tablets	34	31	+50.7%	🌐
	REPLAGAL [®] [replagalin] tablets	255	233	+3.1%	🌐		Vyvanse [®]	1,315	1,205	+5.4%	🌐
	VPRIV [®]	187	171	+3.1%	🌐		Trintellix [®] vortioxetine	346	317	+28.1%	🌐

2019年度上期14グローバルブランドの売上収益合計: 5,470億円（50億米ドル）（+21%）

注：対前年比は実質ベースのpro-forma成長率。2018年度上期売上収益 Pro-formaは、2018年4月～2018年9月の旧武田薬品と旧Shire社製品を合計売上高から売却資産による売上を除き、期中（2018年4月～2019年3月）平均レート、1ドル=111円で換算したもの（なお、重大な差異は認められなかった） 実績が替レートは1ドル=109円。

*1. Albumin Glass, Flexbuminおよび献血アルブミンを含む。



R & D エンジン



アンドリュー・プランプ
リサーチ&デベロップメント
プレジデント

01.
Introduction

02.
ビジネスエリアの
フォーカス

03.
R & D エンジン

04.
強固な財務
プロファイル

05.
Closing
Remarks

06.
質疑応答

イノベーションの次なるウェーブ： 2019年度に予定される新規候補物質パイプラインの主なイベント

	作用機序	疾患/事業領域	予定されるイベント	19年度	コメント
後期臨床 段階 開発品	TAK-924 (pevonedistat)	NAE 阻害薬	オンコロジー 骨髄異形成症候群 ヒポタルPh-2試験 データ読み出し	H1	✓ データの読み出しがなされ、来たる学術会議での発表を予定
	TAK-788	EGFR/HER2阻害薬	オンコロジー 未治療の非小細胞肺癌 Ph-3試験開始	H1	➡ Ph-3試験は第3四半期に開始の見込み
	TAK-823 (alisertib)	オーロラAキナーゼ 阻害薬	オンコロジー 急性骨髄性白血病（フロントライン適応） Ph-3試験開始	H2	➡ 外部導出を通じたバリケクリエーションを探索
	TAK-721	粘膜付着性局所 コルチステロイド	消化器系疾患 好酸球性食道炎Ph-3試験データ発表	H2	NEW ✓ 米国消化器病学会にて12週間Ph-3治療試験データを発表
	TAK-755	ADAMTS13 酵素補充	希少疾患 先天性血栓性血小板減少性紫斑病 Ph-3試験再開	H2	✓ 追加効能として免疫性血栓性血小板減少性紫斑病のPh-2試験、鎌状赤血球症のPh-1/2試験を開始
	TAK-609	イズロン酸-2-スルファ ターゼ補充 (髄腔内投与)	希少疾患 ハンター症候群および認知障害 Ph-3試験 データ読み出し (2年間の延長試験)	H1	➡ 2年間延長試験の追加解析を実施中、結果は19年度下期に得られる予定
	TAK-003	デング熱ワクチン	ワクチン デング熱ワクチンとしての申請可否の判断	H2	Ph-3試験のパート1・パート2のデータを2019年度11月開催の米国熱帯医学会で発表予定
早期臨床 段階 開発品	TAK-573	抗CD38抗体と 活性減弱サイトカインと の融合蛋白	オンコロジー 再発/難治性多発性骨髄腫 POC検証試験データ読み出し	H1	➡ 薬力学データから新規のがん免疫療法としての作用機序を確認、POC解析が進行中。多発性骨髄腫に対する併用試験を20年度上期に、固形がんに対するPh-1試験を19年度下期に開始
	TAK-676	STING agonist	オンコロジー 全身性静脈内投与 Ph-1試験開始	H1	➡ 臨床試験デザインを最適化し、Ph-1試験を開始する地域を変更。試験開始は20年度第1四半期の見込み
	Cell Therapy	(現時点では特定せず)	オンコロジー 少なくとも一つの革新的がん免疫細胞療法法のヒト初回投与への進捗	H2	
	TIMP-Glia (TAK-101) / Kuma062	免疫寛容誘導/ グルテン分解酵素	消化器系疾患 セリアック病 POC検証試験 データ読み出し	H1	✓ TIMP-GliaおよびKuma062ともにPOCを達成。TIMP-Gliaのデータは欧州消化器病週間 (UEG Week) 2019年コンファレンスにて発表。全世界のライセンスを獲得するオプション権を行使
	TAK-748	第IX因子遺伝子治療	希少疾患 血友病B Ph-1試験開始	H2	
	TAK-925	オレキシン2R アゴニスト	ニューロサイエンス 来たるR&D Dayでオレキシン2Rアゴニスト プログラムアップデート	H2	
	TAK-426	ジカウイルスワクチン	ワクチン ジカウイルスワクチンとしての早期POC検証試験 データ読み出し	H2	

2019年度に予定される既発売品研究開発における主なイベント

	品目	予定されるイベント	19年度	コメント
	ADCETRIS	末梢性T細胞リンパ腫（フロントライン適応）欧州申請（ECHELON-2 試験）	H1	✓
	ALUNBRIG	ALTA-1L ALK陽性非小細胞肺癌（フロントライン適応）2回目の中間解析	H1	✓ 2回目の中間解析のデータを受け取り解析を実施、19年度下期の来たる医学会議にて発表の予定
	Cabozantinib	腎がん（セカンドライン適応）日本承認（日本における初めての承認）	H2	
	NINLARO	アミロイドーシス Ph-3試験 データ読み出し	H1	➡ 主要評価項目は達成せず。副次評価項目の有望なデータを、今後学会で発表する予定
		自家造血幹細胞移植未実施の多発性骨髄腫における維持療法Ph-3試験 データ読み出し (TOURMALINE MM4試験)	H2	
	ALOFISEL	クローン病に伴う肛門複雑瘻孔 米国ピボタル試験開始（ADMIRE II 試験）	H1	✓
		クローン病 日本承認	H1	✓
	ENTYVIO	クローン病 皮下投与製剤 米国申請	H2	
		潰瘍性大腸炎 皮下投与製剤 米国承認	H2	
	GATTEX	短腸症候群 米国承認（小児適応）	H1	✓
	TAKHZYRO	ブラジキニン介在性血管性浮腫 試験開始	H2	
	TRINTELLIX	大うつ病 日本承認	H1	✓
	GLASSIA/ARAL AST	a1 アンチトリプシン欠損を伴う肺気腫 ピボタル試験開始	H2	

18

表中の研究開発マイルストーンは一部であり、包括的なものではありません。タイムラインは現在想定しているものであり、変更の可能性があります。疾患名の略語については略語用語集をご参照ください。



革新的な新規候補物質が充実

	PHASE 1		PHASE 2		PHASE 3/申請		承認*
 オンコロジー	TAK-252 Shottens Agonist Redirected Checkpoint Solid tumors TAK-164 ImmuoGen GCC IGM ADC GI malignancies	TAK-573 Teva Anti-CD38-attenukine R/R MM TAK-981 SUMO inhibitor Multiple cancers TAK-079 Anti-CD38 mAb R/R MM, SLE	TAK-931 CDK7 inhibitor ESCC, sqNSCLC TAK-788 EGFR/HER2 inhibitor NSCLC	TAK-385 (relugolix) Myovant GnRH antagonist Prostate Cancer (JP) TAK-924 (pexomedistat) NAE inhibitor HR-MDS/CMML	NINLARO* Proteasome inhibitor ADCETRIS* Seattle Genetics CD30 ADC ICLUSIG* BCR-ABL inhibitor		
 消化器系疾患	TAK-951 Peptide agonist Nausea & vomiting TAK-681 (SHP-681) GLP2r long-acting Short Bowel Syndrome	Kuma062 Pur Biologics Glutamine Celiac Disease TAK-671 Samsung Bioepis Protease inhibitor Acute Pancreatitis TAK-018 Enterome Fimri antagonist Crohn's Disease (post-op and ileitis)	TAK-906 D2/D3R antagonist Gastroparesis TAK-101 Cov Imm Tol Induction Celiac Disease TAK-954 Theravance 5-HT4R agonist POGD	TAK-721 UCSD/Novartis Oral anti-inflammatory EG	ENTYVIO* a487 mAb Vonoprazan PCAB ALOFISEL mesenchymal stem cells		
 希少疾患	TAK-531 ArmaGen I2S replacement Hunter CNS TAK-754 Atklepias Biopharm. Gene therapy HemA	TAK-607 IGF-1/ IGF1R3 Chronic Lung Disease TAK-609 I2S replacement Hunter CNS (IT) TAK-611 Enzyme replacement MLD	TAK-755 KM Biologics ERT/ADAMTS-13 cTTP, ITTP, SCD TAK-620 GlaxoSmithKline UL97 kinase inh CMV infect. in transplant	OBIZUR ipson FVIII replacement VONVENDI vWF replacement NATPARA PTH replacement			
 ニューロサイエンス	TAK-653 AMPA potentiator TRD TAK-418 LSD1 inhibitor Kabuki Syndrome TAK-041 GPR139 agonist CIAS NS	TAK-341 AstraZeneca Alpha-syn mAb Parkinson's Disease TAK-925 Orexin 2R agonist Narcolepsy TAK-994 Orexin 2R agonist Narcolepsy	TAK-935 (soticlestat) Ovid Therapeutics CH24H inhibitor Rare Pediatric Epilepsies TAK-831 DAAO inhibitor CIAS NS	BUCCOLAM GABA Allosteric Modulator			
 血漿分画製剤					HYQVIA Hologzyme IgG 10% + Recombinant Human Hyaluronidase CINRYZE PC C1 Esterase inhibitor		
 ワクチン	TAK-021 EV71 Vaccine TAK-426 BARDA Zika Vaccine	TAK-214 Norovirus Vaccine	TAK-003 Dengue Vaccine	2019年7月31日決算発表以降のステージアップ/追加 2019年4月1日以降のステージアップ/追加 ● オープンドラッグ（希少疾病医薬品）指定			

19

*臨床開発活動を積極的に行っている品目。2019年10月31日時点のバイブライン全てのバイブラインを示している訳ではありません。他の疾患領域でも開発を実施していることがあります。疾患名の略語については略語用語集をご参照ください。

既存製品の価値を最大化

	PHASE 1	PHASE 2	PHASE 3	申請
 オンコロジー		ALUNBRIG* ALK inhibitor ALK+NSCLC (JP) Cabozantinib Exelixis VEGFR/RTK inhibitor 2L HCC (JP) Niraparib GlaxoSmithKline PARP 1/2 inhibitor Ovarian cancer – maint. (JP) ICLUSIG* BCR-ABL inhibitor TKI res. chronic phase CML (US) NINLARO* Proteasome inhibitor R/R MM triplet Tx (GL) ALUNBRIG* ALK inhibitor 2L ALK+NSCLC 2nd gen TKI (GL) NINLARO* Proteasome inhibitor R/R MM doublet Tx (US, EU, JP)	ICLUSIG* BCR-ABL inhibitor FL Ph+ ALL (US) ALUNBRIG* ALK inhibitor 1L ALK+NSCLC (US, JP, CN) NINLARO* Proteasome inhibitor Maint. ND MM no SCT (GL) Cabozantinib Exelixis VEGFR/RTK inhibitor 1L RCC (JP) NINLARO* Proteasome inhibitor Maint. ND MM post-SCT (US, EU, CN) NINLARO* Proteasome inhibitor ND MM (GL)	ADCETRIS* Seattle Genetics CD30 ADC R/R sALLC (CN) ADCETRIS* Seattle Genetics CD30 ADC 1L PTCL (EU, JP) ALUNBRIG* ALK inhibitor 1L ALK+NSCLC (EU) ADCETRIS* Seattle Genetics CD30 ADC R/R HL (CN) Cabozantinib Exelixis VEGFR/RTK inhibitor 2L RCC (JP) NINLARO* Proteasome inhibitor Maint. ND MM post-SCT (JP)
 消化器系疾患		ENTYVIO* α4β7 mAb Pediatric UC/CD (US)	ALOFISEL* mesenchymal stem cells Perianal fistulas in CD (US, JP) GATTEX GLP-2R agonist Adult-SBS (JP) GATTEX GLP-2R agonist Adult-SBS (JP) ENTYVIO* α4β7 mAb SubQ CD (US, JP) ENTYVIO* α4β7 mAb GVHD Prophylaxis (EU, JP)	ENTYVIO* α4β7 mAb SubQ UC (US, EU, JP) ENTYVIO* α4β7 mAb SubQ CD (EU) ENTYVIO* α4β7 mAb Ulcerative Colitis (CN) Vonoprazan PICA Acid-related diseases (CN) ENTYVIO* α4β7 mAb Crohn's Disease (CN)
 希少疾患	NATPARA PTH replacement Hypothyroidism (JP)		OBIZUR Ipisen FVIII replacement CHAWI (US, EU) VONVENDI* vWF replacement vWD Prophylaxis VONVENDI* vWF replacement vWD Pediatric ADYNOVATE Pediatric HemA (EU)	TAKHZYRO Anti-kallikrein mAb HAE prophylaxis (CN) VONVENDI* vWF replacement vWD (JP)
 ニューロサイエンス			BUCCOLAM GABA Allosteric Modulator Status Epilepticus (JP)	
 血漿分画製剤			CINRYZE PD C1 Esterase inhibitor HAE prophylaxis (JP) HYQVIA Ipazen IgG 10% + Reconstituent Human Hydroxyethyl Starch COP HYQVIA Halozyme IgG 10% + Reconstituent Human Hydroxyethyl Starch Pediatric PD (US)	2019年7月31日決算発表以降のステージアップ/追加 2019年4月1日以降のステージアップ/追加 ○ オーフアンドラッグ（希少疾病医薬品）指定 (いずれかの開発地域もしくは効能で指定を受けたもの) ● 申請可能な臨床第2相試験

2019年10月31日時点のパイプライン。地域の略語: GL = グローバル(米国、欧州、日本、中国)。全てのパイプラインを示している訳ではありません。
他の疾患領域でも開発を実施していることがあります。疾患名の略語については略語用語集をご参照ください。



強固な財務 プロファイル



コスタ・サルウコス
チーフ フィナンシャル オフィサー

01.
Introduction

02.
ビジネスエリアの
フォーカス

03.
R & D エンジン

04.
強固な財務
プロファイル

05.
Closing
Remarks

06.
質疑応答

力強い上期実績により通期予想を上方修正



NATPARA回収の影響および為替による大きな影響以上の良好なビジネスモメンタムを反映、通期利益・利益率ガイダンスを上方修正



コスト・シナジー、営業経費効率化、製品ミックス改善により、上期の実質的なCore営業利益^{*1}率は32.2%^{*2}



5,845億円（55億米ドル）の負債を返済、純有利子負債/調整後EBITDA倍率は、2018年度末の4.7倍から3.9倍^{*3}へ低下



現在までに3つの資産について、全体で契約一時金約40億米ドルおよびマイルストーン総額19億米ドルでの売却を公表

*1. 前年度までCore Earningsとして呼称（定義変更なし）。定義は42ページをご参照下さい。

*2. 調整表は51ページをご参照下さい。

*3. 調整表は56-57ページをご参照下さい。



力強い利益率とキャッシュ・フローを上期に達成

2019年度上期連結業績（サマリー）

(億円)	財務ベース		CORE ^{*2}		実質ベース
	2019年度上期	対前年同期	2019年度上期	対前年同期	
売上収益	16,602	+88.5%	16,602	+88.5%	△0.2% (pro-forma成長率) ^{*1}
営業利益	503	△70.7%	5,416	+155.5%	
営業利益率	3.0%	△16.5pp	32.6%	+8.6pp	32.2%
当期利益	332	△73.8%	3,804	+130.3%	
EPS (円)	21円	△140円	244円	+33円	249円
フリー・キャッシュ・フロー ^{*3}	6,769	+461.5%			

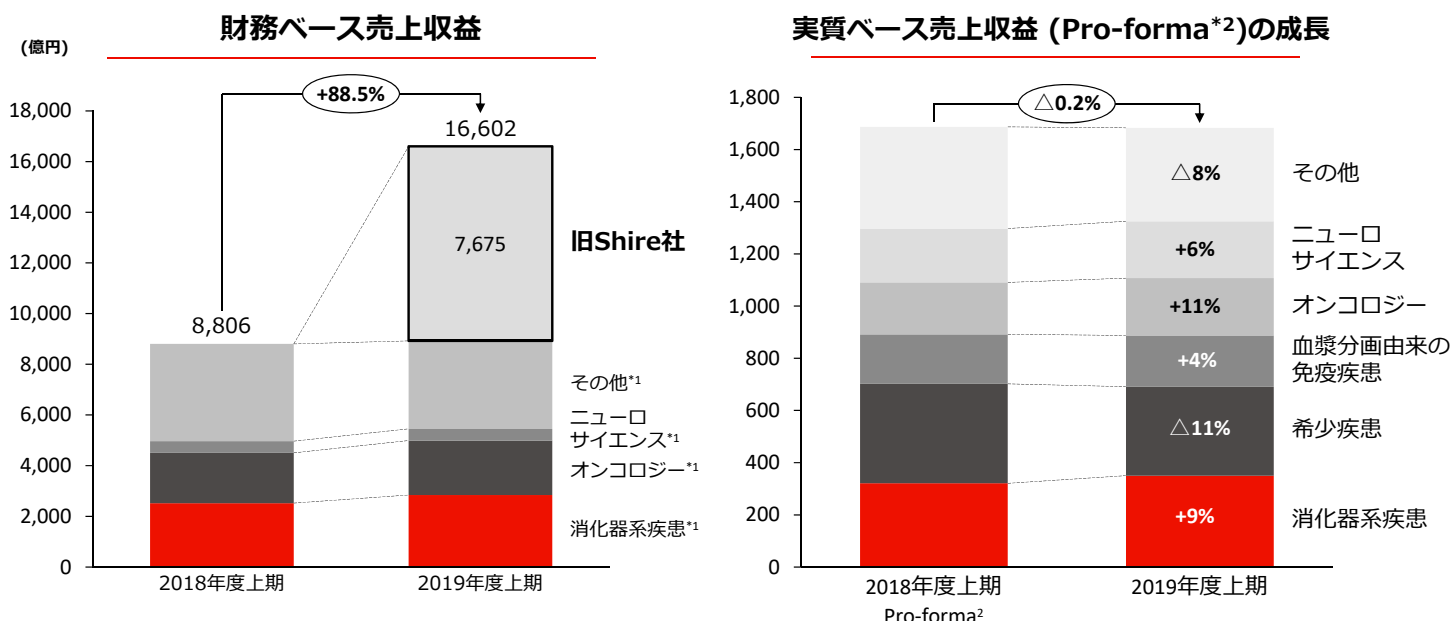
*1. 2018年4-9月（Pro-formaベース）および2019年4-9月の実質的売上収益の変化率。2018年度上期（4-9月）pro-formaは、2018年度上期の武田薬品売上収益（売却事業等を調整）と、期中（2018年4月～2019年3月）平均レート111円/ドルで円貨換算しUS GAAPからIFRSへ組み替えた同期間の旧Shire社売上収益（売却事業等を調整）の合計（なお、重大な差異は認められなかった）。調整表は49ページをご参照下さい。

*2. 調整表は51-54ページをご参照下さい。

*3. 調整表は55ページをご参照下さい。



財務ベース売上収益は旧Shire社連結で+88.5%、主要なビジネスエリアにおける売上収益の増加分は“その他”製品群の減少で相殺しPRO-FORMA売上収益△0.2%



財務ベースEPSは一過性要因と非資金性費用の影響を受けるも、プラスに

2019年度上期連結業績（財務ベース）

(億円)	2018年度 上期	2019年度 上期	対前年同期
売上収益	8,806	16,602	+88.5%
売上総利益率	73.7%	65.5%	△8.2pp
営業費用	△4,452	△6,928	△55.6%
対売上収益比率	50.6%	41.7%	△8.8pp
償却費および減損損失	△483	△2,737	△466.7%
その他営業収益/費用 (net)	162	△711	N/M ^{*1}
営業利益	1,720	503	△70.7%
営業利益率	19.5%	3.0%	△16.5pp
税率	21.3%	N/M ^{*1}	N/M ^{*1}
当期利益	1,267	332	△73.8%
EPS (円)	162円	21円	△140円

コスト・シナジーおよび営業経費効率化がCore営業利益に寄与

2019年度上期連結業績 (Core)*1

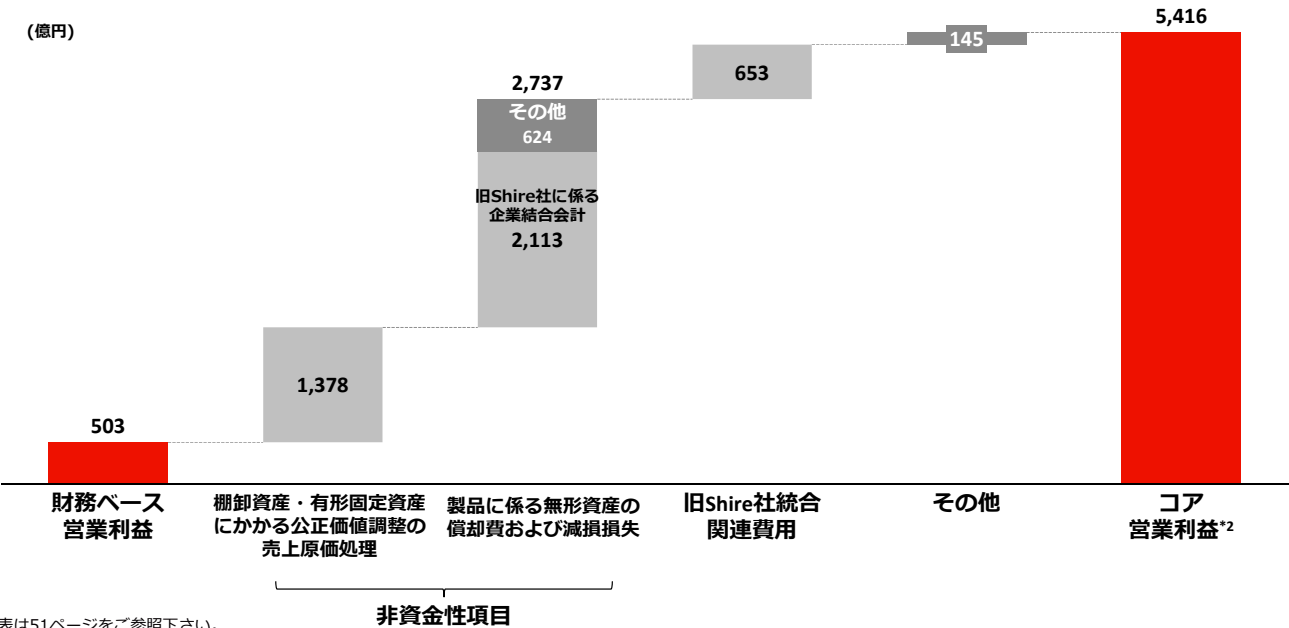
(億円)	2018年度 上期	2019年度 上期	対前年同期
売上収益	8,806	16,602	+88.5%
売上総利益率	73.7%	73.8%	+0.1pp
営業費用	△4,373	△6,841	△56.4%
対売上収益比率	49.7%	41.2%	△8.5pp
営業利益*2	2,120	5,416	+155.5%
営業利益率	24.1%	32.6%	+8.6pp
税率	22.4%	20.2%	△2.2pp
当期利益	1,652	3,804	+130.3%
EPS (円)	211円	244円	+33円

*1. 調整表は51ページをご参照下さい。
*2. 前年度までCore Earningsとして呼称 (定義変更なし)。定義は42ページをご参照下さい。



力強いCore営業利益は
非資金性の企業統合会計上の費用およびその他の買収関連費用を調整したもの

財務ベース営業利益からCore営業利益への調整*1



*1. 調整表は51ページをご参照下さい。
*2. 前年度までCore Earningsとして呼称 (定義変更なし)。定義は42ページをご参照下さい。



旧Shire社統合はビジネスモメンタムを損なうことなく順調に進捗

統合からビジネスの遂行へ シフトすることに注力

✓ 全従業員の94%に新たなポジションの通知を完了、特定された社員の退職率は極小に留まる

✓ 2度目の社員統合アンケート（7月）では高い回答率を達成、社員の78%が統合会社が患者ニーズにより貢献できると回答

最大100億米ドルの ノン・コア資産売却に注力

✓ XIIDRAの譲渡が完了

✓ さらなる潜在的な売却について交渉中

✓ TACHOSILおよび中近東・アフリカにおける一部の一般用医薬品およびノン・コア資産の売却合意について公表

2021年度末までに 年間20億米ドル（税引前）の コスト・シナジー目標を確認

✓ 統合によるコスト・シナジーおよび営業経費削減のターゲットに向けた確実な遂行を進捗管理するプラットフォームが稼働中

統合によるコスト・シナジーおよび営業経費削減のターゲットに向けた確実な遂行

シナジーパッケージKPIレポート

 Compensation & Benefits	 Contactors & Consultants
 Research & Development	 Events & Sponsorships
 Sales Support & Resources	 Technology
 Facilities & Related Services	 Recruitment & Development
 Travel	 Company Vehicles

施設および関連サービス

- 67カ国に渡る85%の営業拠点について意思決定済（145拠点中123拠点）

テクノロジー

- グローバルの標準的なプロセスおよびシステム（ERPシステム、人事プラットフォームなど）をサポートする、基盤となる19のITプログラムを特定

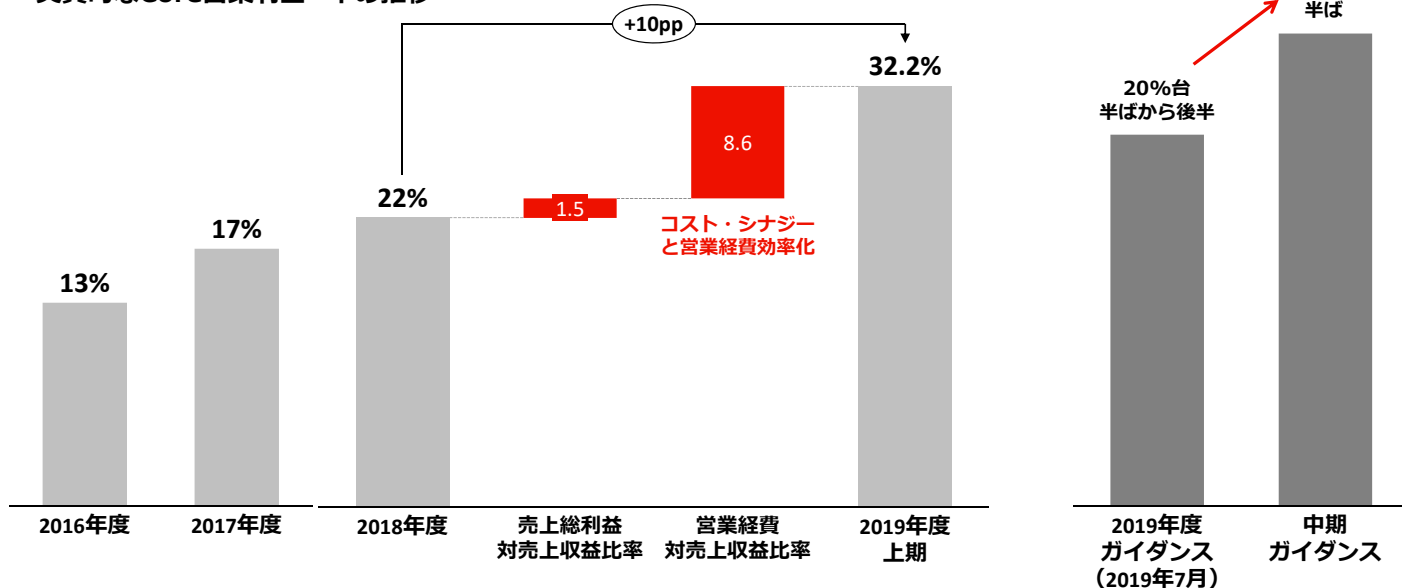
TAKEDA BUSINESS SOLUTIONS コスト・シナジーおよび営業経費効率化の中核



- 完全に機能的なビジネスソリューションチームがファイナンス・調達・税務・財務・人事・マスターデータをサポート
- 規模を活用し、統合された中核拠点がコスト面での最適なサービスを実現
- ビジネスインサイト・分析、プロセス自動化、運転資本改善による価値創造

コスト・シナジーおよび営業経費効率化が利益率目標に向けて寄与

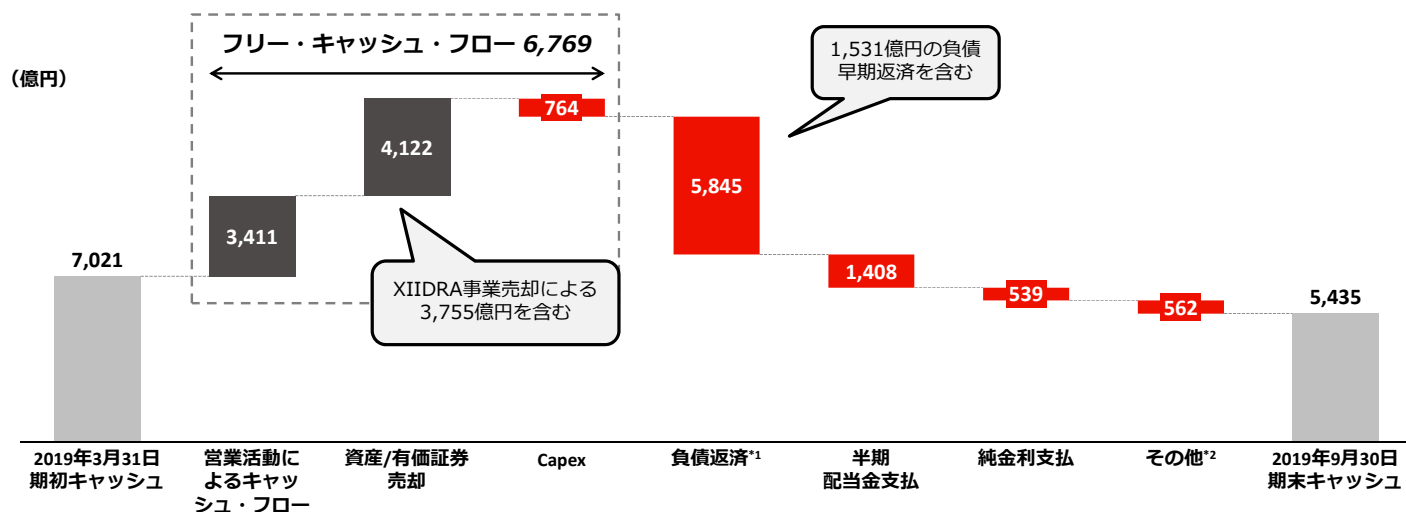
実質的なCore営業利益*1率の推移*2



*1. 前年度までCore Earningsとして呼称 (定義変更なし)。定義は42ページをご参照下さい。
*2. 調整表は51ページをご参照下さい。



潤沢なキャッシュ・フローで上期に5,845億円の負債返済実施

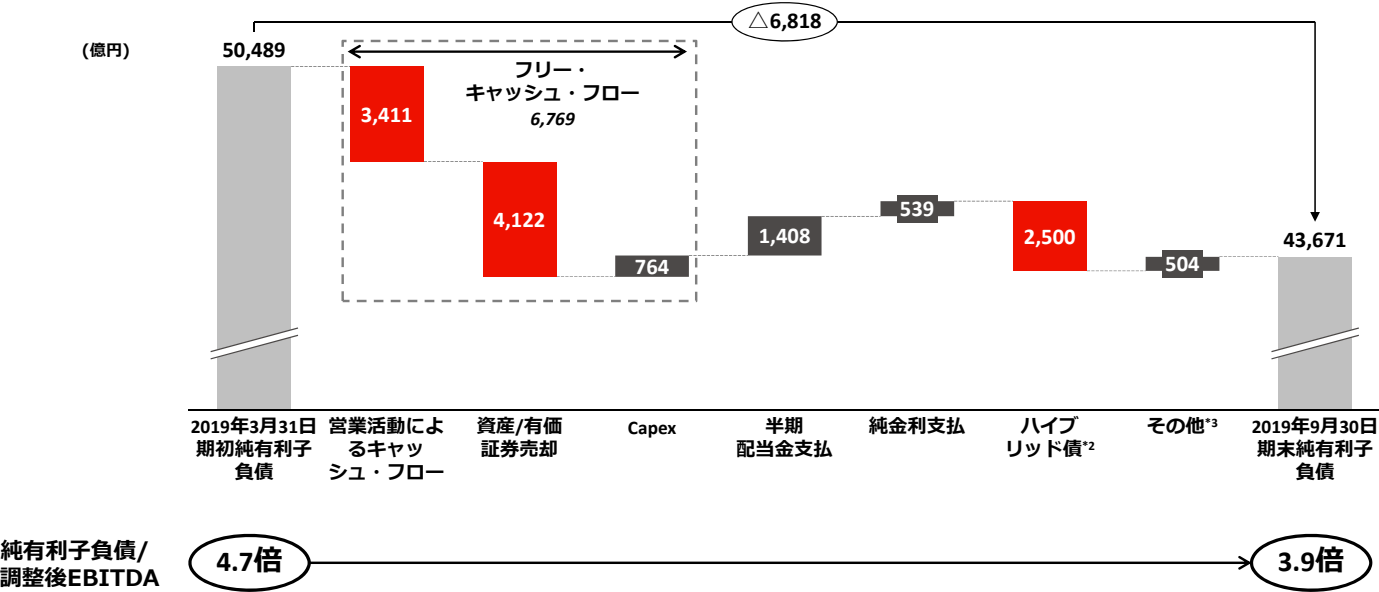


2019年度満期負債は全て上期に返済済、下期満期予定負債なし

*1. 負債返済の項目はキャッシュ支払金額を記載。
*2. その他の項目はキャッシュに与える為替影響、リースにかかる費用、買収にかかる費用、条件付対価支払いを含む。



純有利子負債/調整後EBITDAが4.7倍から3.9倍*1へ、急速にレバレッジが低下



*1. 調整表は56-57ページをご参照下さい。
*2. 2019年6月に5,000億円のハイブリッド債を発行し、既存のシニア短期ローンを借り換えたことで旧Shire社買収の資金調達のパーマネント化を完了。
純有利子負債は格付け機関から認定される50%の資本性(2,500億円)を含む。
*3. 負債簿価への資金性および非資金性調整を含む。非資金性の調整は、負債償却、円貨換算に係る為替影響を含む。 注: 調整後EBITDA及び負債調整表56-57ページをご参照下さい。



2019年度マネジメントガイダンスの上方修正

良好なビジネスモメンタムにより2019年度通期のガイダンスを上方修正
NATPARA回収影響を相殺

	マネジメントガイダンス (2019年7月31日)	2019年度 上期実績	修正 マネジメントガイダンス (2019年10月31日)
実質的な売上収益の成長*1	横ばいから僅かに増加	△0.2%	横ばいから僅かに増加
実質的なCore営業利益*2率*3	20%台半ばから後半	32.2%	20%台後半
実質的なCore EPS*3	360-380円	249円	370-390円
1株当たり年間配当金	180円		180円

(注) 2019年度の修正マネジメントガイダンスには、既に公表している事業等の売却以外は織り込んでおりません。

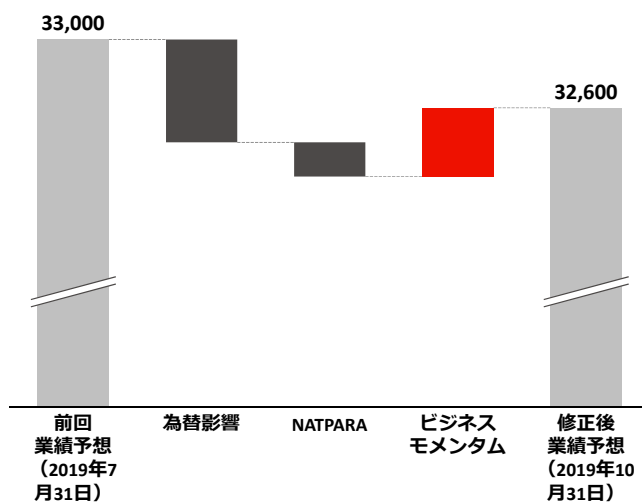
*1. ベースライン3兆3,000億円(旧武田薬品と旧Shire社の2018年4月~2019年3月の12ヶ月の売上収益を、同期間平均レート111円/ドルで換算、合算し概算化したpro-formaベース;
また旧武田薬品のマルチラブ社とテックプール社、TACHOSILの売上収益、旧Shire社のオンコロロジーポートフォリオとXIIDRAの売上収益を除く)と比較した同一為替レートをベース
とした成長率(2018年度期中平均レート111円/ドルを適用)
*2. 前年度までCore Earningsとして呼称(定義変更なし)。定義は42ページをご参照下さい。
*3. 調整表は51ページをご参照下さい。



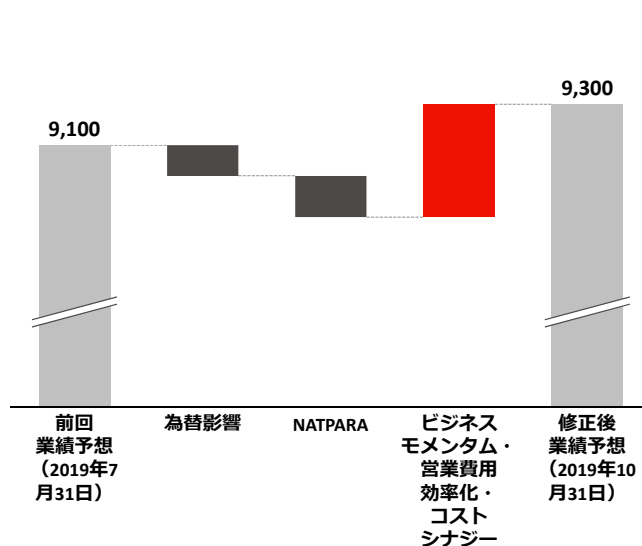
2019年度通期のCore営業利益予想を9,300億円に上方修正

(億円)

財務ベース売上収益 業績予想



Core営業利益^{*1} 業績予想^{*2}



注: 図は概要

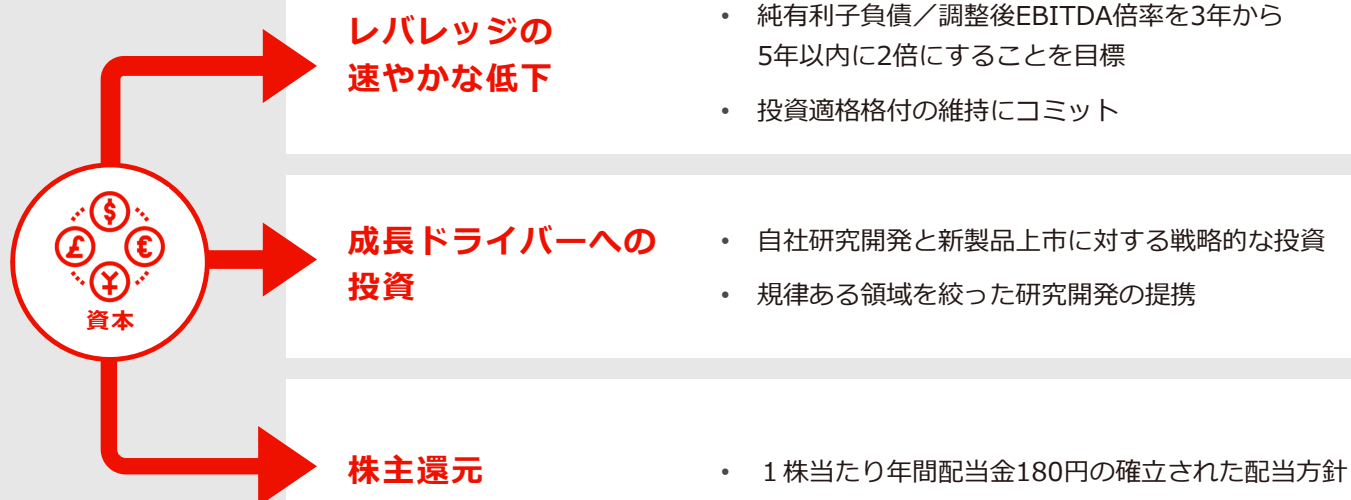
*1. 前年度までCore Earningsとして呼称 (定義変更なし)。定義は42ページをご参照下さい。

*2. 調整表は60ページをご参照下さい。

34



患者さんおよび株主に対する価値を創造するための資本配分



35



投資家向け開催予定イベント

R&D DAY

11月14日（木）

ニューヨーク

血漿分画製剤（PDT）DAY

11月15日（金）

コビントン
（米国ジョージア州）

**R&D および
血漿分画製剤（PDT）DAY**

11月21日（木）

東京

2019年度 第3四半期 決算発表

2020年
2月4日（火）

カンファレンスコール

参加ご希望の方は takeda.ir.contact@takeda.com までお知らせ下さい



CLOSING REMARKS



クリストフ・ウェバー
代表取締役社長 CEO

01.
Introduction

02.
ビジネスエリアの
フォーカス

03.
R & D エンジン

04.
強固な財務
プロフィール

05.
Closing
Remarks

06.
質疑応答

戦略的優先事項を達成

- ☑ 力強いビジネスモメンタムを維持しつつ統合が順調に進捗
- ☑ 14のグローバルブランド、コスト・シナジー、営業経費効率化により、2019年度上期は良好な業績で着地
- ☑ 2019年度通期の利益および利益率予想を上方修正
- ☑ R&Dエンジンにより、売上収益の長期的な成長を支えるパイプラインが進展



Better Health, Brighter Future

経営の基本精神に基づき患者さんを中心に考える
グローバルな研究開発型の
バイオ医薬品のリーディングカンパニー

質疑応答



クリストフ・ウェバー
代表取締役社長 CEO



アンドリュー・ブランブ
リサーチ&ディベロップメント
プレジデント



コスタ・サルウコス
チーフ フィナンシャル
オフィサー



岩崎 真人
ジャパン ファーマ
ビジネス ユニット
プレジデント

01.
Introduction

02.
ビジネスエリアの
フォーカス

03.
R & Dエンジン

04.
強固な財務
プロフィール

05.
Closing
Remarks

06.
質疑応答



APPENDIX



Coreと「実質的な成長」の定義

当社は、事業の計画策定および業績評価において、「実質的な成長」(Underlying Growth)の概念を採用しております。

「実質的な成長」は、当期と前年同期(四半期もしくは年間)の業績を共通の基準で比較するものであり、マネジメントによる業績評価に使用されています。これら共通の基準で比較される業績は、為替レートを一定として、事業等の売却影響およびその他の非定常的もしくは特別な事象に基づく影響、本業に起因しない(ノン・コア)事象による影響を控除し算定されます。当社は、この「実質的な成長」が、事業活動のパフォーマンスを表す共通の基準を提供するため、投資家に有用であると考え、「Underlying Revenue Growth」(実質的な売上収益の成長)、「Underlying Core Operating Profit Growth」(実質的なCore営業利益の成長)および「Underlying Core EPS Growth」(実質的なCore EPSの成長)を重要な財務指標としています。

なお、本指標は、国際会計基準(IFRS)に準拠したものではありません。

実質的な売上収益は、為替レートを一定として、財務ベースの売上収益に、報告期間における非定常的な事象に基づく影響および事業等の売却影響を調整して計算します。

実質的なCore営業利益は、為替レートを一定として、Core営業利益*に、報告期間における事業等の売却影響を調整して計算します。

Core営業利益*は、純利益から、法人所得税費用、持分法にかかる投資損益、金融損益、その他の営業収益およびその他の営業費用、製品に係る無形資産償却費及び減損損失を控除して算出します。その他、企業買収に係る会計処理の影響や買収関連費用など、本業に起因しない(ノン・コア)とマネジメントが判断した事象による影響を調整します。

*2019年度第1四半期より“Core Earnings”を“Core営業利益”に名称変更しました。前述の通り、定義に変更はありません。

実質的なCore EPSの算定にあたっては、為替レートを一定として、純利益から、事業等の売却影響、およびCore営業利益の算出において控除された項目と営業利益以下の各科目のうち、重要性のある、非定常的もしくは特別な事象に基づく影響、本業に起因しない(ノン・コア)事象による影響を調整します。これらには、条件付対価に係る公正価値変動(時間的価値の変動を含む)影響などが含まれます。さらに、これらの調整項目に係る税金影響を控除した後、比較年度末の自社株式控除後の発行済株式総数で除して算定します。

EBITDAと調整後EBITDAの定義

当社がEBITDA及び調整後EBITDAをお示しする理由は、これらの指標が証券アナリスト、投資家その他の関係者が製薬業界における各社の評価を行うに際して頻繁に用いられるものであり、有用と考えられることにあります。また、調整後EBITDAは、変化に富み予測が困難であるが故に経営とは無関係な諸要素により不透明となり、業績に実質的な影響を与え得る、また、継続的に期間毎の業績を評価することに困難にしの事業全体の動向を、投資家の皆様が把握する際に有用と考えられます。

EBITDA及び調整後EBITDAは、IFRSに基づく指標である営業利益及び当期利益等の業績指標と切り離して考慮されてはならず、また、これらの代替ととらえられてはならないものです。これらの指標は、他社において示されている類似の名称を付した財務指標との比較可能性に欠けます。

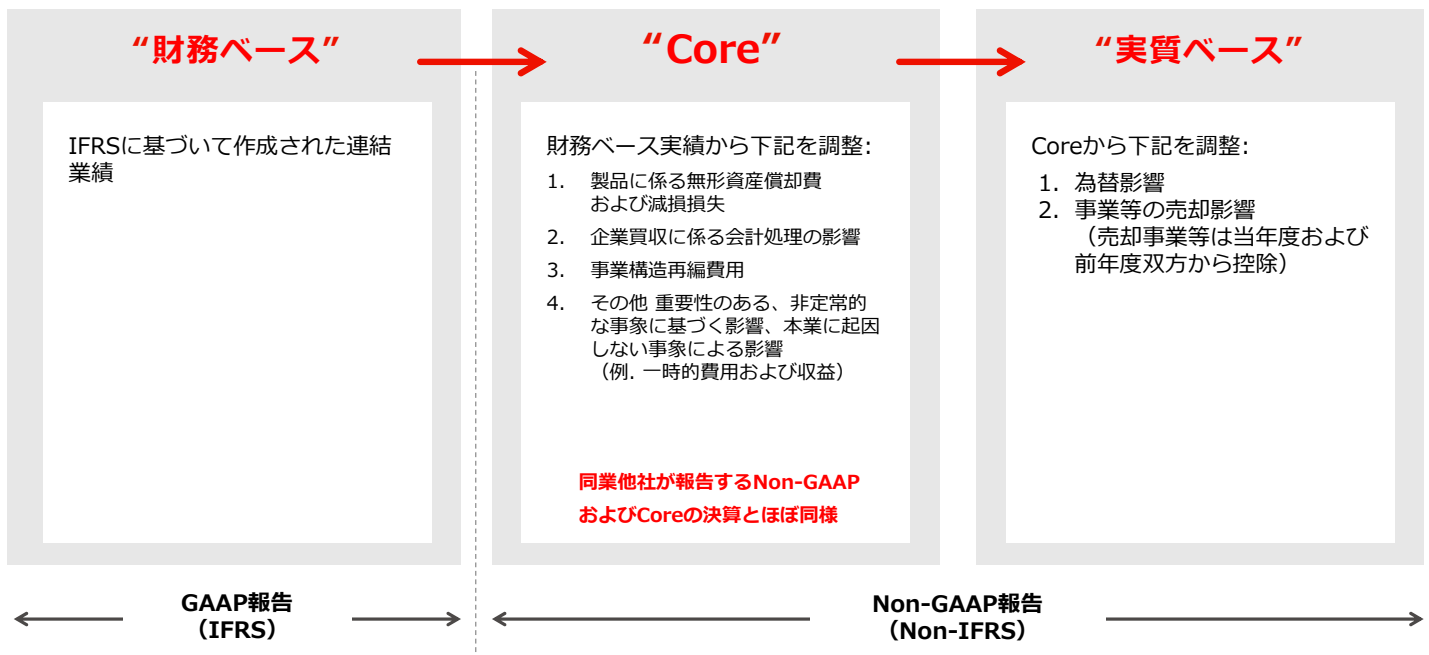
EBITDA及び調整後EBITDAの有益性には、一例として、以下の限界があります。すなわち、(i)製薬業界における他社を含む、他社において用いられている類似の名称を付した財務指標との比較可能性に欠け得るものです。また、(ii)業績評価において重視され得る一定の財務情報、例えば、企業買収や無形資産の償却による影響を除外しております。さらに、(iii)一定期間において継続して生じ得る一定の事項を除外しており、また、(iv)投資家において当社の長期的な観点からの経営には無関係ととらえる事項、例えば、事業売却の影響等を必ずしも除外していません。これらのIFRSに準拠しない財務指標は、IFRSに準拠する当期利益(損失)と同視してはならず、また、これらに代わるものとしてとらえてはなりません。投資家の皆様におかれましては、当社の財務諸表全体を把握し、当社業績、事業価値及び収益予想を評価する基礎となる指標としてはIFRS準拠財務指標に依拠し、また、EBITDA及び調整後EBITDAは補足的な指標として用いられるようお願い申し上げます。

EBITDA及び調整後EBITDA

当社においては、EBITDAは、法人所得税費用、減価償却費及び償却費、並びに純支払利息控除前の純利益を指します。また、調整後EBITDAは、減損損失、その他の営業収益・費用(減価償却費及び償却費を除く)、金融収益・費用(純支払利息を除く)、持分法による投資損益及び企業結合会計影響や取引関連費用などの当社の中核事業に関連しないその他の項目を除外するように調整されたEBITDAを指します。

IFRSに準拠した指標の中では当期利益が最も類似します。IFRSにおいて最も類似した指標との照合については、本プレゼンテーションのスライド57をご参照ください。

タケダの開示指標（定義変更なし）



44

（注）Coreおよび実質的な成長の基準、また調整表についての詳細はスライド42、49-54、60ページをご参照下さい。



2019年度 第2四半期 連結業績（財務ベース）

企業結合会計にかかる非資金性の費用を計上するも財務ベースEPSはプラスへ

（億円）	2018年度 第2四半期	2019年度 第2四半期	対前年同期
売上収益	4,308	8,110	+88.3%
売上総利益率	74.3%	66.5%	△7.8pp
営業費用	△2,282	△3,368	△47.6%
対売上収益比率	53.0%	41.5%	△11.5pp
償却費および減損損失	△243	△1,254	△416.7%
その他営業収益/費用 (net)	55	△367	N/M ^{*1}
営業利益	731	404	△44.7%
営業利益率	17.0%	5.0%	△12.0pp
税率	27.7%	N/M ^{*1}	N/M ^{*1}
当期利益	484	538	+11.2%
EPS (円)	62円	35円	△27円

45

*1. 比較検討不可能（Not Meaningful）



2019年度 第2四半期 連結業績 (CORE)*1

旧Shire社統合後もタケダの強固な収益力を実証：Core営業利益率は+9.8pp改善

(億円)	2018年度 第2四半期	2019年度 第2四半期	対前年同期
売上収益	4,308	8,110	+88.3%
売上総利益率	74.3%	73.1%	△1.2pp
営業費用	△2,249	△3,340	△48.5%
対売上収益比率	52.2%	41.2%	△11.0pp
営業利益*2	951	2,586	+171.8%
営業利益率	22.1%	31.9%	+9.8pp
税率	27.7%	18.4%	△9.3pp
当期利益	675	1,820	+169.8%
EPS (円)	86円	117円	+31円

*1. 調整表は52、54ページをご参照下さい。

*2. 前年度までCore Earningsとして呼称 (定義変更なし)。定義は42ページをご参照下さい。



2019年度 上期の財務ベース実績

(億円)	2018年度 上期	2019年度 上期	対前年同期	
売上収益	8,806	16,602	+7,796	+88.5%
売上原価	△2,313	△5,723	△3,410	△147.4%
売上総利益	6,493	10,879	+4,386	+67.6%
対売上収益比率	73.7%	65.5%		△8.2pp
販売費及び一般管理費	△2,938	△4,625	△1,687	△57.4%
研究開発費	△1,514	△2,304	△789	△52.1%
製品に係る無形資産償却費	△476	△2,563	△2,087	△438.0%
製品に係る無形資産減損損失	△6	△173	△167	-
その他の営業収益	323	113	△210	△65.0%
その他の営業費用	△161	△824	△662	△410.4%
営業利益	1,720	503	△1,216	△70.7%
対売上収益比率	19.5%	3.0%		△16.5pp
金融収益	44	174	+130	+293.8%
金融費用	△196	△993	△796	△406.0%
持分法による投資損益	40	40	+0	+0.0%
税引前当期利益	1,608	△276	△1,883	-
当期利益 (親会社の所有者持分)	1,267	332	△935	△73.8%
非支配持分	△2	1	+3	-
当期利益	1,265	333	△932	△73.7%
基本的EPS (円)	162 円	21 円	△140 円	△86.8%



2019年度 第2四半期の財務ベース実績

(億円)	2018年度 第2四半期	2019年度 第2四半期	対前年同期	
売上収益	4,308	8,110	+3,803	+88.3%
売上原価	△1,108	△2,717	△1,610	△145.3%
売上総利益	3,200	5,393	+2,193	+68.5%
対売上収益比率	74.3%	66.5%		△7.8pp
販売費及び一般管理費	△1,488	△2,233	△745	△50.1%
研究開発費	△795	△1,135	△340	△42.8%
製品に係る無形資産償却費	△240	△1,242	△1,002	△418.0%
製品に係る無形資産減損損失	△3	△12	△9	△315.8%
その他の営業収益	230	46	△184	△79.8%
その他の営業費用	△175	△414	△239	△136.6%
営業利益	731	404	△326	△44.7%
対売上収益比率	17.0%	5.0%		△12.0pp
金融収益	△18	87	+105	-
金融費用	△48	△532	△484	-
持分法による投資損益	5	17	+12	+258.3%
税引前当期利益	669	△24	△693	-
当期利益（親会社の所有者持分）	484	538	+54	+11.2%
非支配持分	△0	1	+1	-
当期利益	484	539	+55	+11.4%
基本的EPS（円）	62 円	35 円	△27 円	△44.0%

財務ベース売上収益から実質的な売上収益への調整 2019年度上期（対前年同期）

(億円)	2018年度 ^{*1} 上期	2019年度 上期	対前年同期	
売上収益	8,806	16,602	+7,796	+88.5%
旧Shire社の売上収益	8,489	—		
売上収益（試算ベース）	17,295	16,602	△693	△4.0%
為替影響 ^{*2}				+2.8pp
事業等の売却影響 ^{*3}				+1.0pp
テックプール社およびマルチラブ社				+0.4pp
XIIDRAおよびTACHOSIL				+0.7pp
その他				△0.1pp
実質的な売上収益の成長				△0.2%

^{*1} 2018年度上期の売上収益は試算ベースであり、米国会計基準に基づき報告された旧Shire社の2018年4-9月の売上収益をIFRSに一致させた上（重要な差異は認められなかった）、当社による買収以前の2018年8月に売却した旧Shire社のオンコロジー事業を除き、当該期間の実勢レートを用いて算出した売上収益を合計したものです。

^{*2} 為替影響は、2018年度および2019年度に、2018年度の実勢レート（1ドル=111円、1ユーロ=129円）を用いて算出しています。

^{*3} 事業等の売却影響では、主に、2018年度に売却した連結子会社であったテックプール社およびマルチラブ社にかかる2018年度上期の売上収益、2019年7月に売却が完了したXIIDRAおよび2019年5月に売却に合意した2019年度中の売却を予定しているTACHOSILにかかる2018年度上期および2019年度上期の売上収益を控除して調整しています。

財務ベース売上収益から実質的な売上収益への調整 2019年度第2四半期（対前年同期）

（億円）	2018年度 ^{*1} 第2四半期	2019年度 第2四半期	対前年同期	
売上収益	4,308	8,110	+ 3,803	+88.3%
旧Shire社の売上収益	4,272	—		
売上収益（試算ベース）	8,580	8,110	△ 469	△ 5.5%
為替影響 ^{*2}				+ 4.2pp
事業等の売却影響 ^{*3}				+ 1.6pp
テックプール社およびマルチラブ社				+ 0.3pp
XIIDRAおよびTACHOSIL				+ 1.3pp
その他				+ 0.1pp
実質的な売上収益の成長				+0.3%

^{*1} 2018年度第2四半期の売上収益は試算ベースであり、米国会計基準に基づき報告された旧Shire社の2018年7-9月の売上収益をIFRSに一致させた上（重要な差異は認められなかった）、当社による買収以前の2018年8月に売却した旧Shire社のオンコロジー事業を除き、当該期間の実勢レートを適用して算出した売上収益を合計したものです。

^{*2} 為替影響は、2018年度および2019年度に、2018年度の実勢レート（1ドル=111円、1ユーロ=129円）を適用して算出しています。

^{*3} 事業等の売却影響では、主に、2018年8月に売却した連結子会社であったテックプール社にかかる2018年度第2四半期の売上収益と、2019年5月に売却に合意し2019年度中の売却を予定しているTACHOSILにかかる2018年度第2四半期および2019年度第2四半期の売上収益を控除して調整しています。2018年度第2四半期のマルチラブ社と2019年度第2四半期のXIIDRAについては、ともに当該期間の期初に売却が完了し売上収益が計上されなかったことから調整していません。



2019年度上期 財務ベースからCore/Underlying Core への調整表

(億円)	財務ベース	財務ベースからCoreへの調整						Core	Coreから実質ベースへの調整		Underlying Core (実質ベース)
		無形資産に係る償却費および減損損失	その他の営業収益／費用	シャイアー社買収関連費用	シャイアー社に係る企業結合会計影響	スイス税制改革	その他		為替影響	事業等の売却影響	
売上収益	16,602							16,602	442	△212	
売上原価	△5,723				1,378			△4,345	△110	30	
売上総利益	10,879				1,378			12,257	331	△182	
販売費及び一般管理費	△4,625			14	23			△4,588	△119		
研究開発費	△2,304			52	△1			△2,253	△30		
製品等に係る無形資産償却費	△2,563	450			2,113			-			
製品等に係る無形資産減損損失	△173	173						-			
その他の営業収益	113		△113					-			
その他の営業費用	△824		236	588				-			
営業利益 対売上収益比率	503 3.0%	623	123	653	3,514			5,416 32.6%	182	△182	32.2%
金融損益	△819			35	84		△4	△703	42		
持分法損益	40						12	53	0		
税引前当期利益	△276	623	123	688	3,598		9	4,765	224	△182	
法人所得税費用	608	△111	16	△131	△681	△563	△99	△961	△14	43	
非支配持分	△1							△1	△0		
当期利益	332	513	140	557	2,916	△563	△90	3,804	210	△139	
EPS（円）	21							244	14	△9	249
株式数（百万）	1,557							1,557			1,555



2019年度第2四半期 財務ベースからCore/Underlying Core への調整表

(億円)	財務ベース	財務ベースからCoreへの調整						Core	Coreから実質ベースへの調整		Underlying Core (実質ベース)
		無形資産 に係る 償却費および 減損損失	その他の 営業収益／ 費用	シャイアー社 買収関連 費用	シャイアー社 に係る 企業結合会計 影響	スイス 税制改革	その他		為替影響	事業等の 売却影響	
売上収益	8,110							8,110	325	△40	
売上原価	△2,717				533			△2,184	△80	9	
売上総利益	5,393				533			5,927	245	△31	
販売費及び一般管理費	△2,233			6	12			△2,214	△90		
研究開発費	△1,135			8	1			△1,126	△24		
製品等に係る無形資産償却費	△1,242	220			1,022			-			
製品等に係る無形資産減損損失	△12	12						-			
その他の営業収益	46		△46					-			
その他の営業費用	△414		142	272				-			
営業利益	404	232	96	286	1,568			2,586	131	△31	
対売上収益比率	5.0%							31.9%			32.0%
金融損益	△445			35	39		△12	△383	37		
持分法損益	17						12	29	△6		
税引前当期利益	△24	232	96	321	1,607		△0	2,232	162	△31	
法人所得税費用	563	△39	95	△62	△309	△563	△97	△411	△4	7	
非支配持分	△1							△1	△0		
当期利益	538	193	191	259	1,299	△563	△97	1,820	158	△24	
EPS (円)	35							117	10	△2	126
株式数 (百万)	1,558							1,558			1,555

2018年度上期 財務ベースからCoreへの調整表

(億円)	財務ベース	財務ベースからCoreへの調整				Core
		無形資産 に係る 償却費および 減損損失	その他の 営業収益／ 費用	シャイアー社 買収関連 費用	その他	
売上収益	8,806					8,806
売上原価	△2,313					△2,313
売上総利益	6,493					6,493
販売費及び一般管理費	△2,938				79	△2,859
研究開発費	△1,514					△1,514
製品等に係る無形資産償却費	△476	476				-
製品等に係る無形資産減損損失	△6	6				-
その他の営業収益	323		△323			-
その他の営業費用	△161		130	32		-
営業利益	1,720	483	△193	111		2,120
対売上収益比率	19.5%					24.1%
金融損益	△152				88	△51
持分法損益	40				18	58
税引前当期利益	1,608	483	△193	198	31	2,127
法人所得税費用	△343	△116	21	△34	△6	△477
非支配持分	2					2
当期利益	1,267	367	△172	165	26	1,652
EPS (円)	162					211
株式数 (百万)	783					783

2018年度第2四半期 財務ベースからCoreへの調整表

(億円)	財務ベース	財務ベースからCoreへの調整				Core
		無形資産に係る償却費および減損損失	その他の営業収益／費用	シャイアー社買収関連費用	その他	
売上収益	4,308					4,308
売上原価	△1,108					△1,108
売上総利益	3,200					3,200
販売費及び一般管理費	△1,488			33		△1,454
研究開発費	△795					△795
製品等に係る無形資産償却費	△240	240				-
製品等に係る無形資産減損損失	△3	3				-
その他の営業収益	230		△230			-
その他の営業費用	△175		144	31		-
営業利益	731	243	△87	65		951
対売上収益比率	17.0%					22.1%
金融損益	△66			28	7	△32
持分法損益	5				9	14
税引前当期利益	669	243	△87	92	16	933
法人所得税費用	△185	△58	△11	△13	8	△259
非支配持分	0					0
当期利益	484	184	△97	80	24	675
EPS (円)	62					86
株式数 (百万)	783					783

フリー・キャッシュ・フロー

(億円)	2018年度 上期	2019年度 上期	対前年同期	
当期利益	1,265	333	△932	△73.7%
減価償却費、償却費及び減損損失	787	3,605	+2,819	
運転資本増減 (△は増加)	△664	△244	+420	
法人税等の支払額	△188	△906	△717	
その他	△20	623	+643	
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,178	3,411	+2,233	+189.5%
有形固定資産の取得による支出	△373	△551	△178	
有形固定資産の売却による収入	61	1	△60	
無形資産の取得による支出	△211	△214	△2	
投資の取得による支出	△103	△39	+64	
投資の売却、償還による収入	382	406	+24	
事業売却による収入 (処分した現金及び現金同等物控除後)	272	3,755	+3,483	
フリー・キャッシュ・フロー	1,205	6,769	+5,563	+461.5%

純有利子負債/調整後EBITDA

純有利子負債/調整後EBITDA倍率（試算ベース）

（億円）	2019年度 上期
現金および現金同等物 ^{*1}	5,435
貸借対照表上の負債簿価	△50,246
ハイブリッド社債の50%資本性認定 為替調整 ^{*2}	2,500 △1,360
有利子負債 ^{*3}	△49,106
純有利子負債	△43,671

純有利子負債/調整後EBITDA倍率（試算ベース） **3.9 x**

調整後EBITDA	9,391
調整後EBITDA（試算ベース）	11,312

キャッシュの純増減

（億円）	2018年度 上期	2019年度 上期	対前年同期	
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,178	3,411	+2,233	+189.5%
有形固定資産の取得による支出	△373	△551		
有形固定資産の売却による収入	61	1		
無形資産の取得による支出	△211	△214		
投資の取得による支出	△103	△39		
投資の売却、償還による収入	382	406		
事業取得による支出	272	3,755		
短期借入金の純減少額	△4	△4,614		
長期借入金の返済による支出	—	△600		
社債の発行による収入	—	4,962		
社債の償還による支出	—	△5,631		
配当金の支払額	△714	△1,408		
その他	△302	△879		
現金の増減額（△は減少）	185	△1,402	△1,587	—

*1 各期末日の翌日から1年以内に償還期限の到来する短期投資を含む。

*2 調整後EBITDA（試算ベース）計算と整合させるため、外貨建て負債の換算に用いる為替レートを月末レートから平均レートに変更して調整している。

*3 流動・非流動の社債および借入金。2019年6月に5,000億円のハイブリッド債を発行、格付け機関から認定された50%の資本性である2,500億円を負債から控除。
また、負債簿価への資金性および非資金性調整を含む。非資金性の調整には、負債償却と為替影響を含む。

当期利益からEBITDA/調整後EBITDAへの調整

（億円）	2019年度 上期	2019年度 LTM ^{*1}
当期利益	333	158
法人所得税費用	△608	△1,092
減価償却費及び償却費	3,420	5,364
純支払利息	710	1,091
EBITDA	3,854	5,521
減損損失	186	280
その他の営業収益・費用（減価償却費及び償却費を除く）	697	287
金融収益・費用（純支払利息を除く）	109	240
持分法による投資損益	△40	436
その他の調整項目		
Shire社の買収で取得した棚卸資産の公正価値調整による利益への影響	1,321	2,143
Shire社買収に係る費用	12	171
その他の費用 ^{*2}	190	313
調整後EBITDA	6,329	9,391
旧Shire社の調整後EBITDA ^{*3}	—	1,921
調整後EBITDA（試算ベース）	6,329	11,312

*1 2019年9月30日までの過去12ヶ月（LTM: Last Twelve Months）

*2 2019年度第1四半期より、株式報酬にかかる非資金性の費用の調整を含む。

*3 旧Shire社の当該期間にかかる財務情報をIFRSに組み替えた調整後EBITDA。旧武田薬品と旧Shire社とでは、調整後EBITDAの定義および算出方法に重要な相違はない。

2019年度修正業績予想

財務概要	(億円)	2018年度 実績	2019年度 前回公表予想 (2019年7月31日)	2019年度 今回修正予想 (2019年10月31日)	対前年度		対前回公表予想		2019年度 前回公表予想 (2019年7月31日)			2019年度 今回修正予想 (2019年10月31日)
	売上収益	20,972	33,000	32,600	+11,628	+55.4%	△400	△1.2%	Shire社買収関連費用			
	研究開発費	△3,683	△4,910	△4,840	△1,157	△33.3%	+70	+1.4%	販売及び一般管理費・研究開発費			
	無形資産償却費及び減損損失	△2,034	△6,590	△6,370	△4,336	△224.0%	+220	+3.3%	- 買収費用等			
	その他の営業収益	1,599	90	240	△1,359	△85.0%	+150	+166.7%	その他の営業費用			
	その他の営業費用	△1,032	△1,720	△1,990	△958	△66.7%	△270	△15.7%	- 統合費用			
	営業利益	2,050	△1,660	△1,100	△3,150	-	+560	+33.7%	金融費用			
	金融費用	△833	△1,750	△1,720	△887	△110.1%	+30	+1.7%	- プリッジローンフィー、利息等			
	税引前当期利益	949	△3,420	△2,900	△3,849	-	+520	+15.2%	税引前当期利益影響			
	当期利益	1,091	△3,677	△2,730	△3,821	-	+947	+25.8%	主な企業結合会計による影響			
	EPS (円)	114 円	△236 円	△175 円	△289 円	-	+61 円	+25.7%	売上原価			
	Core営業利益	4,593	9,100	9,300	+4,707	+102.5%	+200	+2.2%	- 棚卸資産の公正価値調整			
	円/ドル	111 円	111 円	109 円	△2 円		△2 円		製品等に係る無形資産償却費			
	円/ユーロ	129 円	124 円	121 円	△8 円		△3 円		- Shire社買収関連			
										その他の非資金性の費用		
									製品等に係る無形資産償却費			
									- 旧武田薬品関連			
									製品等に係る無形資産減損損失			

2019年度修正業績予想 その他の見通しの前提

(億円)	2019年度 上期	2019年度 前回公表予想	2019年度 今回修正予想
棚卸資産の公正価値調整の売上原価処理（売上原価）	△1,321	△2,530	△2,110
研究開発費	△2,304	△4,910	△4,840
製品等に係る無形資産償却費 - Shire社買収関連	△2,113	△4,390	△4,230
製品等に係る無形資産償却費 - 旧武田薬品関連	△450	△990	△930
製品等に係る無形資産減損損失	△173	△1,210	△1,210
Shire社統合費用（その他の営業費用）	△588	△1,540	△1,460
金融費用 - 合計	△993	△1,750	△1,720
資本的支出	N/A	△1,800～ △2,300	△1,800～ △2,300
有形固定資産の減価償却費および無形資産償却費 （製品等に係る無形資産償却費を除く）	△856	N/A	△1,500
調整後EBITDAに対する現金税金の税率（事業売却を除く）	N/A	約20～23%	約20～23%

2019年度修正業績予想 財務ベースからCoreへの調整表

(億円)	財務ベース	財務ベースからCoreへの調整					Core
		無形資産に係る 償却費 (旧武田薬品)	無形資産に係る 減損損失	その他の営業 収益/費用	シャイアー社 買収関連費用	シャイアー社に 係る企業結合 会計影響	
売上収益	32,600						32,600
売上原価						2,110	
棚卸資産の公正価値調整の売上原価処理 有形固定資産の公正価値調整の償却						60	
売上総利益						2,170	
販売費及び一般管理費					70	40	
製品等に係る無形資産償却費	△5,160	930				4,230	-
製品等に係る無形資産減損損失	△1,210		1,210				-
その他の営業収益	240			△240			-
その他の営業費用	△1,990			530	1,460		-
営業利益	△1,100	930	1,210	290	1,530	6,440	9,300

経験豊富で多様性に富んだタケダ・エグゼクティブチーム

日本



米国



スイス



SINGAPORE



ベスト・イン・クラスのガバナンスを有する取締役体制

社内取締役



クリストフ・ウェバー
代表取締役社長 CEO



岩崎 真人
取締役
ジャパン ファーマ
ビジネスユニット プレジデント



アンドリュー・ブランブ
取締役
リサーチ&デベロップメント
プレジデント



コスタ・サルウコス
取締役
チーフ フィナンシャル
オフィサー

監査等委員会



山中 康彦
取締役
監査等委員

独立社外取締役^{*1}



坂根 正弘
独立取締役
取締役会議長
指名委員会委員長



オリビエ・ボユオン
独立取締役



ジャン＝リュック・プテル
独立取締役



イアン・クラーク
独立取締役



藤森 義明
独立取締役



スティーブン・ギリス
独立取締役



国谷 史朗
独立取締役



志賀 俊之
独立取締役



初川 浩司
独立取締役
監査等委員会委員長



東 恵美子
独立取締役
監査等委員
報酬委員会委員長



ミシェル・オーシnger
独立取締役
監査等委員

- CB 取締役会議長
- 独立社外取締役
- NC 指名委員会^{*2}
- CC 報酬委員会

^{*1}. 東京証券取引所の有価証券上場規定の定義によるもの
^{*2}. クリストフ・ウェバーは指名委員会にオブザーバーとして参加



略語用語集

AD	Alzheimer's disease (アルツハイマー病)	DU	duodenal ulcer (十二指腸潰瘍)	iPSC	induced pluripotent stem cells (人工多能性幹細胞)	PK	pharmacokinetics (薬物動態)
ADC	antibody drug conjugate (抗体薬物複合体)	Dx	diagnosis (診断)	LBD	Lewy Body Dementia (レビー小体病)	POC	proof of concept (概念実証)
ADHD	attention deficit hyperactivity disorder (注意欠陥多動性障害)	EE H	erosive esophagitis healing (びらん性食道炎の治癒)	LB AML	Low-Blast Acute Myeloid Leukemia (低ブラスト急性骨髄性白血病)	POI	post-operative ileus (術後イレウス)
ALK	anaplastic lymphoma kinase (未分化リンパ腫キナーゼ)	EE M	erosive esophagitis maintenance (びらん性食道炎の再発予防)	LSD1	Lysine specific demethylase 1 (リジン特異的脱メチル化酵素1)	PTCL	peripheral T-cell lymphoma (末梢性T細胞リンパ腫)
ALS	amyotrophic lateral sclerosis (筋萎縮性側索硬化症)	EFI	enteral feeding intolerance (経腸栄養不耐性)	LCM	lifecycle management (ライフ・サイクル・マネジメント)	PTH	parathyroid hormone (副甲状腺ホルモン)
AML	acute myeloid leukemia (急性骨髄性白血病)	EGFR	epidermal growth factor receptor (上皮増殖因子受容体)	mAb	monoclonal antibodies (モノクローナル抗体)	R/R	relapsed/refractory (再発/難治)
ASCT	autologous stem cell transplant (自家幹細胞移植)	EOE	eosinophilic esophagitis (好酸球性食道炎)	MAOB	monoamine oxidase B (モノアミン酸化酵素B)	RCC	renal cell cancer (腎細胞がん)
ARD	acid-related diseases (酸関連疾患)	ESCC	esophageal squamous-cell carcinoma (食道扁平上皮がん)	MLD	metachromatic leukodystrophy (異染色性白質ジストロフィー)	RTK	receptor tyrosine kinase (受容体チロシンキナーゼ)
BDK	Bruton's tyrosine kinase (ブルトン型チロシンキナーゼ)	FL	front line (フロントライン適応)	MM	multiple myeloma (多発性骨髄腫)	sALCL	systemic anaplastic large cell lymphoma (全身性未分化大細胞リンパ腫)
BBB	blood brain barrier (血液脳関門)	FSI	first subject in (最初の患者登録)	NAE	NEDD8 activating enzyme (NEDD8活性化酵素)	SBS	short bowel syndrome (短腸症候群)
BOS	budesonide oral solution (ブデソニド経口懸濁液)	GCC	guanylyl cyclase C (グアニル酸シクラーゼC)	ND	newly diagnosed (新たに診断された)	SC	subcutaneous formulation (皮下投与製剤)
CAR-T	Chimeric antigen receptor-T (次世代型キメラ抗原受容体発現T細胞)	GERD	gastroesophageal reflux disease (胃食道逆流症)	NDA	new drug application (新薬承認申請)	SCD	sickle cell disease (鎌状赤血球症)
CD	Crohn's disease (クローン病)	GI	gastrointestinal (胃腸)	Neg	negative (陰性)	SCT	stem cell transplant (幹細胞移植)
CHAWI	congenital hemophilia A with inhibitors (インヒビター保有先天性血友病A)	GnRH	gonadotropin-releasing hormone (ゴナドトロピン放出ホルモン)	NERD	non-erosive reflux disease (非びらん性胃食道逆流症)	SCZ	schizophrenia (統合失調症)
CIAS	cognitive impairment associated with schizophrenia (統合失調症に伴う認知障害)	GU	gastric ulcer (胃潰瘍)	NK	natural killer (ナチュラルキラー)	SLE	systemic lupus erythematosus (全身性エリテマトーデス)
CIDP	chronic inflammatory demyelinating polyradiculoneuropathy (慢性炎症性脱髄性多発根神経炎)	GvHD	graft versus host disease (移植片対宿主病)	NME	new molecular entity (新規候補物質)	SQ	squamous (扁平上皮)
CML	chronic myeloid leukemia (慢性骨髄性白血病)	HAE	hereditary angioedema (遺伝性血管浮腫)	NSCLC	non-small cell lung cancer (非小細胞肺癌)	STING	stimulator of interferon genes (インターフェロン遺伝子刺激因子)
CMML	chronic myelomonocytic leukemia (慢性骨髄単球性白血病)	H2H	head to head (直接比較)	NSCT	non stem cell transplant (非幹細胞移植)	SUMO	small ubiquitin-related modifier (低分子ユビキチン様修飾因子)
CSF	cerebrospinal fluid (脳脊髄液)	HCC	hepatocellular carcinoma (肝細胞がん)	NS	negative symptoms (陰性症状)	TESD	treatment emergent sexual dysfunction (治療に起因する性機能障害)
CNS	central nervous system (中枢神経系)	HemA	hemophilia A (血友病A)	ORR	overall response rate (全奏効率)	TKI	tyrosine kinase inhibitor (チロシンキナーゼ阻害剤)
CRL	complete response letter (審査完了報告通知)	HER2	human epidermal growth factor receptor 2 (ヒト上皮成長因子受容体2)	PARP	poly (ADP-ribose) polymerase (ポリADPリボースポリメラーゼ)	TRD	treatment resistant depression (治療抵抗性うつ病)
CTCL	cutaneous T Cell Lymphoma (皮膚T細胞性リンパ腫)	HL	Hodgkin's lymphoma (ホジキンリンパ腫)	PBS	phosphate buffered saline (リン酸緩衝生理食塩水)	UC	ulcerative colitis (潰瘍性大腸炎)
CTTP	congenital thrombotic thrombocytopenic purpura (先天性の血栓性血小板減少性紫斑病)	HR MDS	high risk myelodysplastic syndromes (高リスク骨髄異形成症候群)	PCAB	potassium competitive acid blocker (カリウムイオン競合型アシッドブロッカー)	VWD	von Willebrand disease (フォン・ウィレブランド病)
DAAO	D-amino acid oxidase (D-アミノ酸酸化酵素)	IBD	inflammatory bowel disease (炎症性腸疾患)	Ph+ ALL	Philadelphia chromosome-positive acute lymphoblastic leukemia (フィラデルフィア染色体陽性ヒト急性リンパ性白血病)		
DED	dry eye disease (ドライアイ)	IND	investigational new drug (治験薬)	PID	primary immunodeficiency (原発性免疫不全)		
DLBCL	diffuse large B cell lymphoma (びまん性大細胞型B細胞リンパ腫)	I/O	immuno-oncology (がん免疫治療)				
		ITTP	immune thrombotic thrombocytopenic purpura (免疫性血栓性血小板減少性紫斑病)				
		IV	intravenous (静脈投与)				